

地方独立行政法人福岡市立病院機構
平成27年度の業務実績に関する評価結果報告書

平成28年8月

地方独立行政法人福岡市立病院機構評価委員会

目 次

は じ め に	1
第 1 項 全体評価	2
第 2 項 項目別評価	4
(1) 大項目評価	
第 1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成する ためとるべき措置	4
第 2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	7
第 3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	8
第 4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	9
(2) 小項目評価	
福岡市立病院機構の概要	13
全体的な状況	15
項目別の状況	22
第 1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成する ためとるべき措置	
1 医療サービス	22
2 患者サービス	42
3 医療の質の向上	50
第 2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実	68
2 事務部門等の専門性の向上	70
3 意欲を引き出す人事・給与制度等の導入	72
第 3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 経営基盤の強化	74
2 収支改善	78
第 4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	
1 新病院の整備及び運営に関する取組	92
2 福岡市民病院の経営改善の推進	94
第 5 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画	96
第 6 短期借入金の限度額	99
第 7 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	99
第 8 剰余金の使途	99
第 9 地方独立行政法人福岡市立病院機構の業務運営等に関する規則で定める業務運営に 関する事項	100

※ 中期計画においては、第 1 から第 4 までの小項目評価の項目は、それぞれ第 2 から第 5 となる。

〈参考資料〉

○地方独立行政法人福岡市立病院機構 業務実績評価の方針	101
○地方独立行政法人福岡市立病院機構 年度業務実績評価実施要領	103

はじめに

地方独立行政法人福岡市立病院機構評価委員会は、地方独立行政法人法第28条の規定に基づき、地方独立行政法人福岡市立病院機構の平成27年度における業務実績の全体について総合的に評価を実施した。

評価に際しては、本評価委員会において、平成22年11月10日に決定した「地方独立行政法人福岡市立病院機構業務実績評価の方針」(101ページ参照)及び「地方独立行政法人福岡市立病院機構年度業務実績評価実施要領」(103ページ参照)に基づき評価を行った。

地方独立行政法人福岡市立病院機構評価委員会 委員名簿

	氏 名	職 名
委 員 長	寺 坂 口 治	福岡市医師会 副会長
副委員長	松 田 晋 哉	産業医科大学医学部公衆衛生学教室 教授
委 員	佐 田 正 之	医療法人佐田厚生会佐田病院 理事長
	花 岡 夏 子	福岡県看護協会 会長
	行 正 晴 實	公認会計士

第1項 全体評価

評価結果及び判断理由

〈評価結果〉

第2期中期目標期間の3年目である平成27年度の業務実績に関する評価については、すべての小項目評価が「評価3」以上であることから、第1から第4の大項目評価はすべて「評価A」となる。

この大項目評価の結果を踏まえ、福岡市の医療施策として求められる高度専門医療・高度救急医療を提供するための取組みや、積極的な増収対策と費用削減による当期純利益の確保などから、平成27年度の業務実績は「中期計画の実現に向けて計画どおり進んでいる」と評価する。

〈判断理由〉

福岡市から独立した法人として、理事長を中心に、両病院と運営本部が一体となった経営体制を構築し、経営管理の徹底を図っている。

福岡市立こども病院においては、小児総合医療施設として、これまで培ってきた小児医療（高度・地域・救急）及び周産期医療の更なる充実を図るとともに、各診療部門の早期本格稼働に取り組んでいる。また、福岡市民病院においては、地域医療計画における4疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞及び糖尿病）への対応を中心に高度専門医療の更なる充実を図るとともに、救急部門の体制強化に積極的に取り組んでいる。

その結果、両病院とも、病床利用率、1日あたり入院患者数、外来単価などにおいて前年度実績を上回り、手術件数、逆紹介率など複数の目標値を達成している。

経営収支面では、人員の適正配置や救急患者の受入体制整備などによる増収対策に加え、コストパフォーマンスを考慮した診療材料等の選定や価格交渉の徹底などによる費用削減に取り組んだ結果、市立病院機構全体で6,200万円余の当期純利益を確保するとともに、両病院とも、経常収支比率、医業収支比率などにおいて目標値を達成している。

項 目	評価 項目 数	ウェイトを 考慮した 項目数	小項目評価					大項目評価
			評価 5	評価 4	評価 3	評価 2	評価 1	
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	14	24		20	4			A 計画どおり進んでいる
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	3	3			3			A 計画どおり進んでいる
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	6	11		2	9			A 計画どおり進んでいる
第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	2	4		4				A 計画どおり進んでいる
合 計	25	42		26	16			

全体評価にあたって考慮した内容

〈主な取り組みや特色ある取り組み〉

福岡市立こども病院においては、小児高度専門医療の更なる充実に向けて、脳神経外科、皮膚科、小児歯科及びアレルギー・呼吸器科を新設するとともに、川崎病センター及びてんかんセンターを設立し診療体制の強化を図っている。また、国家戦略特別区域法に基づく病床規制の特例を活用し、双胎間輸血症候群におけるFLP治療及びその周産期管理のための病床6床を産科病棟に増床するなど、医療機能の強化を図っている。

福岡市民病院においては、医療法で定められた医療計画における4疾病への対応を中心に、循環器内科医を2人増員し循環器救急搬送患者の受入拡充を図っているほか、新たに感染症専門医を2人配置するとともに、「感染・災害対策マニュアル」を策定するなど感染症医療体制の整備を進めている。

また、両病院ともに地域医療支援病院としての役割を更に高めるため、開放型病床への登録医の拡大やオープンカンファレンスの開催などを通じて、地域の医療機関を中心に積極的な病病連携・病診連携に努めている。

さらに、災害発生に備え、両病院ともに医療機能を維持するための必要物品の備蓄や医療用設備の整備を適切に行うとともに、県外の自治体病院等との広域的な災害派遣協定等に基づき、医療班の組織や衛星電話、その他必要な応急物資を整備するなど、災害発生時における相互応援体制を強化している。

〈特筆すべき取り組み〉

福岡市立こども病院においては、患者の受入調整等を行ったことで、年度当初は収入が減少したものの、7月以降、手術体制の見直しなど本格稼働に向けた取り組みを推進するとともに、救急患者受入体制を強化するなど増収を図ったことで、例年以上の医業収益を確保した。

福岡市民病院においても、高度医療の更なる充実や効率的な病床管理等に努めるとともに、難易度や専門性の高い手術、カテーテル治療及び検査件数が増加し、例年以上の医業収益を確保した。

また、両病院ともに外部コンサルタントを活用した診療材料等の調達に係る価格交渉の徹底、ジェネリック医薬品の使用拡大などに取り組み、着実に費用の削減を進めてきた。

上記のとおり両病院ともに中期計画に基づく経営の効率化や健全化に取り組み、市立病院機構全体では6,200万円余の当期純利益を確保するなど、経営改善が順調に進んでいる。

評価にあたっての意見、指摘等

〈両病院〉

- ・新人看護師の離職率は、全国平均より高い福岡県と比べて両病院ともに低く、頑張っている。
- ・今後、電力契約などの相手方の選定方法を見直してみてもどうか。

〈福岡市立こども病院〉

- ・こども病院は、県内外からの患者が多いため、逆紹介は難しく実績は妥当と思われる。
- ・小児病院はそれぞれに特性があり、ベンチマーキングは難しい。
- ・新病院開院後の変動期にもよく職員をまとめて対応している。

〈福岡市民病院〉

- ・市民病院は、何度もメディカルラリーで優勝しており、職員が生き生きしている印象である。
- ・市民病院では、なかなか作りづらい認定看護師等資格取得支援制度のようなスキームを整備していることを、評価したい。
- ・市民病院の専門医師数増のような努力が黒字を生んでいるのだと思う。

第2項 項目別評価

(1)大項目評価

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

評価結果 A（計画どおり進んでいる）

評価結果

「良質な医療の実践」「地域医療への貢献と医療連携の推進」「患者サービスの向上」「病院スタッフの確保と教育・研修」「信頼される医療の実践」の項目において、年度計画の目標を上回る成果を上げているほか、全ての項目で年度計画どおり順調に実施している。

評価結果	S 特筆すべき進捗 状況にある	A 計画どおり進ん でいる	B おおむね計画ど おり進んでいる	C やや遅れている	D 重大な改善すべ き事項がある
------	-----------------------	---------------------	-------------------------	--------------	------------------------

※ 評価A=小項目において全ての項目の評価が3～5

小項目評価の集計結果(評価した項目数)

項 目	評価 項目数	ウエイト を考慮 した 項目数	小項目評価				
			評価 5	評価 4	評価 3	評価 2	評価 1
1 医療サービス	5	9		8	1		
2 患者サービス	4	6		4	2		
3 医療の質の向上	5	9		8	1		
合 計	14	24		20	4		

評価判断理由

①特筆すべき小項目評価

「1-(1) 良質な医療の実践 イ 福岡市立こども病院」

集学的・包括的な診療のため、新たに川崎病センターやてんかんセンターを設置するなど診療体制の強化を図ったほか、国家戦略特区を活用した産科病床の6床増床、救急受入体制の強化による救急搬送件数の大幅増など、新病院の移転開院直後に関わらず、年度計画を上回って実施している項目を積極的に評価し、「評価4」とした。

「1-(1) 良質な医療の実践 ウ 福岡市民病院」

循環器内科医を2人、感染症専門医を2人、血管外科医を1人増員するなど診療機能の充実・強化に取り組むとともに、循環器救急搬送患者の受入拡充を図ったことにより、循環器領域で手術件数やカテーテル治療等が増加するとともに、脳卒中領域でも手術件数が増加するなど、年度計画を上回って実施している項目を積極的に評価し、「評価4」とした。

「1-(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進 ア 福岡市立こども病院」

紹介率とオープンカンファレンスの回数がやや目標値を下回っているものの、その他の指標については、確実に目標値を達成していること、また、周産期センターの人員体制強化や年間1,000件以上の救急搬送患者受入、粕屋医師会との連携強化など、新病院開院後の変動期にありながら、地域の医療機関との連携強化に努めていることなどから総合的に勘案し、年度計画を上回って実施していると判断されることから、「評価4」とした。

「1-(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進 イ 福岡市民病院」

紹介率、逆紹介率などすべての指標で実績が目標値を上回っていることから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とした。

「2-(1) 患者サービスの向上 ア 福岡市立こども病院」

小児在宅医療推進ワーキンググループを立ち上げ、きめ細やかな患者支援を行ったほか、患者や病院施設利用の意見を踏まえ、駐車場料金の見直しや売店・レストランの利便性向上を図り、また、ふくおかハウスの運営に対する協力や外国人患者が円滑に受診できるような医療提供体制が整備されていることから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とした。

「2-(1) 患者サービスの向上 イ 福岡市民病院」

会計窓口の拡張や待合スペースの拡充など外来患者の利便性に努めたほか、入院ベッドの更新など療養環境の整備を行った結果、患者満足度調査における平均評価点数が目標値を上回ったことから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とした。

「3-(1) 病院スタッフの確保と教育・研修 ア 福岡市立こども病院」

新病院の本格稼働に向け、医師や看護師等を大幅に増員するとともに、院内研修について外部講師の活用などによる内容充実を図ったほか、全職員向けの医療英語研修会や小児科専門医を目指す全研修医向けのランチゼミの開催など、様々な視点から教育・研修制度の充実を図っていることから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とした。

「3-(1) 病院スタッフの確保と教育・研修 イ 福岡市民病院」

医師や看護師等を増員するとともに、ワーク・ライフ・バランス推進プロジェクトの取組等により引き続き職員が働きやすい職場環境づくりを推進し看護職員離職率が低下(26年度10.5%→27年度7.7%)したほか、新たに創設した専門看護師の資格取得支援制度において1人が受講を開始するなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とした。

「3-(2) 信頼される医療の実践 ア 福岡市立こども病院」

院内死亡・死産事例検討会を設置するなど医療安全対策の充実を図るとともに、管理栄養士など他職種による「食育・歯育・保育」の取組を開始したほか、医療の質向上のため全国のこども病院と連携して「臨床指標」を策定したこと、さらに、薬剤管理指導件数及び栄養食事指導・相談件数いずれも目標値を上回っていることから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とした。

「3-(2) 信頼される医療の実践 イ 福岡市民病院」

RRS等の新たな手法を用い医療安全対策の徹底を図ったほか、クリニカルパス適応率の向上、すべての病棟への薬剤師配置を行ったことに加え、薬剤管理指導件数及び栄養食事指導・相談件数のいずれも目標値を上回っていることから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とした。

②その他考慮すべき事項

特になし。

評価にあたっての意見、指摘等

- ・新人看護師の離職率は福岡県が全国平均より高いが、両病院はともに低く、頑張っている。
- ・こども病院は、県内外からの患者が多いため、逆紹介は難しく実績は妥当と思われる。
- ・小児病院はそれぞれに特性があり、ベンチマーキングは難しい。
- ・新病院開院後の変動期にもよく職員をまとめて対応している。
- ・市民病院は、何度もメディカルラリーで優勝しており、職員が生き生きしている印象である。
- ・市民病院では、なかなか作りづらい認定看護師等資格取得支援制度のようなスキームを整備していることを、評価したい。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

評価結果 A（計画どおり進んでいる）

評価結果

理事会の決定方針に沿った運営を行うとともに、両病院とも院長のリーダーシップの下、機動性の高い病院経営を行っており、年度計画を順調に実施している。

評価結果	S 特筆すべき進捗 状況にある	A 計画どおり進ん でいる	B おおむね計画ど おり進んでいる	C やや遅れている	D 重大な改善すべ き事項がある
------	-----------------------	---------------------	-------------------------	--------------	------------------------

※ 評価A＝小項目において全ての項目の評価が3～5

小項目評価の集計結果（評価した項目数）

項 目	評価 項目数	ウェイト を考慮 した 項目数	小項目評価				
			評価 5	評価 4	評価 3	評価 2	評価 1
1 自立性・機動性の高い運営管理体制の充実	1	1			1		
2 事務部門等の専門性の向上	1	1			1		
3 意欲を引き出す人事・給与制度等の導入	1	1			1		
合 計	3	3			3		

評価判断理由

- ①特筆すべき小項目評価
特になし。
- ②その他考慮すべき事項
特になし。

評価にあたっての意見、指摘等

特になし。

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

評価結果 A（計画どおり進んでいる）

評価結果

様々な増収対策や費用削減に取り組んだ結果、市立病院機構全体で当期純利益を確保しており、年度計画を順調に実施している。

評価結果	S 特筆すべき進捗 状況にある	A 計画どおり進ん でいる	B おおむね計画ど おり進んでいる	C やや遅れている	D 重大な改善すべ き事項がある
------	-----------------------	---------------------	-------------------------	--------------	------------------------

※ 評価A＝小項目において全ての項目の評価が3～5

小項目評価の集計結果（評価した項目数）

項 目	評価 項目数	ウェイト を考慮 した 項目数	小項目評価				
			評価 5	評価 4	評価 3	評価 2	評価 1
1 経営基盤の強化	2	3			3		
2 収支改善	4	8		2	6		
合 計	6	11		2	9		

評価判断理由

① 特筆すべき小項目評価

「2-(1) 増収 イ 福岡市民病院」

1日当たりの入院・外来単価や手術件数等の増加等により、医業収益は前年度実績を大きく上回っていることから、経常収支比率や医業収支比率等の年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とした。

②その他考慮すべき事項

特になし。

評価にあたっての意見、指摘等

・今後、電力契約などの相手方の選定方法を見直してみてもどうか。

第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置

評価結果 A（計画どおり進んでいる）

評価結果

福岡市立こども病院においては、国家戦略特区の特例を活用した増床など医療機能の充実を図っており、福岡市民病院においては、医業収益の向上により当期純利益を確保するなど、年度計画を上回って実施している。

	S	A	B	C	D
評価結果	特筆すべき進捗状況にある	計画どおり進んでいる	おおむね計画どおり進んでいる	やや遅れている	重大な改善すべき事項がある

※ 評価A=小項目において全ての項目の評価が3～5

小項目評価の集計結果(評価した項目数)

項 目	評価 項目数	ウエイト を考慮 した 項目数	小項目評価				
			評価 5	評価 4	評価 3	評価 2	評価 1
1 新病院の整備及び運営に関する取組	1	2		2			
2 福岡市民病院の経営改善の取組	1	2		2			
合 計	2	4		4			

評価判断理由

①特筆すべき小項目評価

「1 新病院の整備及び運営に関する取組」

市民に親しまれる病院づくりを推進するため積極的に情報発信を行ったこと、また、必要な医師及び看護師等を増員するとともに、新人教育等を徹底し、一般病棟については本格稼働に移行し、GCU等についても稼働病床数が拡大したほか、国家戦略特区を活用し産科病床を6床増床したことから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とした。

「2 福岡市民病院の経営改善の推進」

医業収益は大幅に増加し、医業収支比率は目標値を上回ったことから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とした。

②その他考慮すべき事項

特になし。

評価にあたっての意見、指摘等

- ・新病院開院後の変動期にもよく職員をまとめて対応している。
- ・市民病院の専門医師数増のような努力が黒字を生んでいるのだと思う。

(2)小項目評価 別紙のとおり

(別紙)

**地方独立行政法人福岡市立病院機構
平成 27 年度の業務実績に関する評価結果**

小項目評価

福岡市立病院機構の概要

1 現況

① 法人名

地方独立行政法人福岡市立病院機構

② 本部の所在地

福岡市東区香椎照葉5丁目1番1号

③ 役員の状況（平成27年4月1日現在）

役員	氏名	備考
理事長	竹中 賢治	福岡市民病院 院長
副理事長	原 寿郎	福岡市立こども病院 院長
理事	石原 進	福岡経済同友会 代表幹事
	久保 千春	九州大学 総長
	石井 幸充	前 福岡市代表監査委員
	青木 知信	福岡市立こども病院 副院長
	是永 大輔	福岡市民病院 副院長
	塚崎 恵子	福岡市民病院 看護部長
監事	伊達 健太郎	弁護士
	久留 和夫	公認会計士

④ 運営する病院

病院名	所在地	病床数
福岡市立こども病院	福岡市東区香椎照葉5丁目1番1号	一般病床 233床(※)
福岡市民病院	福岡市博多区吉塚本町13番1号	一般病床 200床 感染症病床 4床

※ 福岡市立こども病院は、国家戦略特別区域法に基づく病床規制の特例を活用し、平成27年8月21日から239床に増床

⑤ 職員数（平成27年5月1日現在）

区 分	職員数
合 計	844人
福岡市立こども病院	475人
福岡市民病院	357人
運営本部	12人

2 基本的な目標等

地方独立行政法人福岡市立病院機構は、地方独立行政法人制度の特長である自律性、自主性を最大限に発揮し、医療制度改革や診療報酬改定など医療を取り巻く環境の変化に迅速かつ柔軟に対応しつつ、効率的な病院経営を行いながら、地域の医療機関等との機能分担や連携の下、引き続き高度専門医療、救急医療等を提供し、地域における医療水準の向上、市民の健康の維持及び増進に寄与すべく、以下の基本理念及び基本方針の下、福岡市長から指示された中期目標を達成する。

〈基本理念〉

いのちを喜び、心でふれあい、すべての人を慈しむ病院を目指します。

〈基本方針〉

質の高い医療の提供

地域・社会に貢献する病院

健全な病院経営

1 法人の総括と課題

法人設立6年目となる平成27年度については、福岡市から示された第2期中期目標期間の3年目であり、中期目標の達成に向け、医療水準の更なる向上や経営の効率化等に取り組んだ。

福岡市から独立した法人として、地方独立行政法人制度の特長を最大限に生かした自律的な経営が求められていることを踏まえ、理事長を中心に、両病院と運営本部が一体となった運営を行うとともに、外部理事を含む理事会を定期的に開催し、経営管理の徹底を図った。

これらの経営基盤の下、第2期中期計画及び平成27年度の年度計画に基づき、福岡市立こども病院においては、これまで培ってきた小児医療（高度・地域・救急）及び周産期医療の更なる充実を図るとともに、各診療部門の早期本格稼働に向け、人員体制等の整備に取り組んだ。

また、福岡市民病院においては、4疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞及び糖尿病）への対応を中心に高度専門医療の更なる充実を図るとともに、医師の増員等により救急部門及び感染症部門の体制強化を図った。

また、両病院ともに地域医療支援病院としての役割を踏まえ、積極的に地域の医療機関との連携強化に取り組み、地域医療への貢献に努めた。

経営収支面では、増収対策として、人員の適正配置や救急患者の受入体制の整備などを通じて、病床利用率の向上や手術件数の増加などに努めるとともに、コストパフォーマンスを考慮した診療材料等の選定や価格交渉の徹底など費用削減に取り組んだ結果、福岡市立こども病院においては、各診療部門が本格稼働に至っていない現状において、年度計画で想定していた当期純損失は大幅に縮小した。また、福岡市民病院においては、当期純利益は8,400万円余を確保した。

今後の課題としては、福岡市立こども病院については、求められる小児・周産期の高度専門医療を提供する病院としての役割を果たしていくため、必要な病床数や医療機能等について、医療環境の変化や新病院開院以降の実績等を踏まえながら、検討を進めていく必要がある。

また、福岡市民病院については、高度専門医療並びに救急医療体制の更なる充実によって、難易度・専門性の高い手術の実施及び重篤な救急患者受入を推進するとともに、地域医療構想・新公立病院改革ガイドラインに沿った取組を進める必要がある。

2 大項目ごとの特記事項及び各病院の取り組み状況

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 医療サービス

福岡市の医療施策として求められる高度専門医療、高度救急医療等を引き続き提供するために、診療機能の更なる充実を図った。

福岡市立こども病院においては、小児高度専門医療の更なる充実に向けて、脳神経外科、皮膚科、小児歯科及びアレルギー・呼吸器科を新設し必要な人員を配置するとともに、診療科の連携による集学的・包括的な診療を目的に、川崎病センター及びてんかんセンターを設立し診療体制の強化を図った。また、国家戦略特別区域法に基づく病床規制の特例を活用し、双胎間輸血症候群におけるFLP治療及びその周産期管理のための病床6床を産科病棟に増床するなど、医療機能の強化を図った。

福岡市民病院においては、医療法で定められた医療計画における4疾病への対応を中心に、救急部門の更なる体制強化を図るため、循環器内科医を2人増員し循環器救急搬送患者の受入拡充を図ったほか、新型インフルエンザ等発生時に対応するため、新たに感染症専門医を2人配置するとともに、「感染・災害対策マニュアル」を策定するなど感染症医療体制の整備を進めた。

また、両病院ともに地域医療支援病院としての役割を更に高めるため、開放型病床への登録医の拡大やオープンカンファレンスの開催などを通じて、地域の医療機関を中心に積極的な病病連携・病診連携に努めた。

さらに、災害発生に備え、両病院ともに医療機能を維持するための必要物品の備蓄や医療用設備の整備を適切に行うとともに、県外の自治体病院等との広域的な災害派遣協定等に基づき、医療班の組織や衛星電話、その他必要な応急物資を整備するなど、災害発生時における相互応援体制を強化した。

(2) 患者サービス

患者一人ひとりに質の高い医療及び充実した看護を提供することが患者サービスの基本と捉えたうえで、より一層の接遇改善を含め、職員が一丸となって患者サービスの向上に取り組むとともに、ボランティアの協力も得ながら患者満足度の向上に努めた。

福岡市立こども病院においては、退院時アンケートの結果等を踏まえ、付添者の駐車場料金の見直しを行ったほか、地域及び関係機関とともにバス運行の拡充に関する要望活動を行うなど、更なる患者サービスの向上に努めた。

福岡市民病院においては、すべての入院患者を対象に患者満足度調査を実施し、更なる患者サービスの向上に努めるとともに、会計窓口や外来待合スペースを拡充するなど、外来患者の利便性の向上を図った。

(3) 医療の質の向上

診療体制の強化・充実及び医療スタッフの確保については、両病院において医師及び看護師等の増員を行うとともに、福岡市立こども病院において、小児科専門医を目指す全研修医向けのランチゼミを毎週開催したほか、看護学生を対象に、従来から実施していた病院見学会に加えインターンシップを開催するなど、意欲をもった人材の確保に取り組んだ。

福岡市民病院においても、感染症専門医の配置など医療機能の充実を図るとともに、医療従事者の勤務環境の改善に継続的に取り組み、看護職員の離職率の低下につなげた。

また、両病院ともに院内の感染防止対策や医療安全対策の強化を図ったほか、薬剤管理指導や栄養食事指導・相談を充実し、安全安心な医療の提供に努めた。

さらに、不祥事防止及びコンプライアンスの推進を図るため、院長訓示をはじめ職員研修など様々な機会を通じて職員の服務規律の指導を徹底するとともに、市民に開かれた病院づくりを進めるため、ホームページや広報誌等を活用し積極的な情報発信に努めるなど、法令遵守と情報公開を徹底した。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実

平成27年度は計10回の理事会を開催し、法人の経営方針を決定するとともに、適宜、経営管理諸表による経営状況の把握や年度計画の進捗状況を管理し、業務執行の適確性の検証はもとより、経済性・効率性の追及を徹底した。

また、病院長のリーダーシップの下、執行部会議（福岡市立こども病院）や経営五役会議（福岡市民病院）の開催等により、各病院の現場の実態に即した迅速かつ効果的な経営を行った。

(2) 事務部門等の専門性の向上

事務職員の人材育成・活性化のための方向性と具体的な取組を示した「事務職員人材育成プラン」を踏まえ、事務局全体の機能強化を図るため、両病院及び運営本部間の人事異動を実施した。

また、マネジメント能力向上を目的に、監督者（係長級職員）研修や主任級職員研修を実施したほか、院内研修の定期的開催や、外部研修の受講を積極的に推奨するなど、経営感覚に優れた事務職員の育成に努めた。

(3) 意欲を引き出す人事・給与制度等の導入

平成27年度から試行を開始した医師以外の管理職を対象とする管理職目標管理制度について、将来的には職員の業績や貢献度等を給与に反映できるよう、評価手法や目標設定のあり方等について検討を進めた。

また、ワーク・ライフ・バランス推進の観点から、福利厚生の実施を図るため、

福岡市立こども病院においては、就業環境に係るインデックス調査や夜間保育に関するアンケートを実施した。

福岡市民病院においても、ワーク・ライフ・バランス推進委員会において、全職員を対象とした人事制度説明会を開催したほか、年次有給休暇の取得率向上に向け、勤務環境の改善に取り組むなど、職員が働きやすい職場環境づくりに努めた。

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 経営基盤の強化

法人の経営幹部（理事長、副理事長、運営本部長、各病院の事務部長及び看護部長）で構成する「経営会議」を毎月開催し、月次の経営管理諸表を作成して、随時、経営状況の検証を行い、課題に応じた適切な改善策を講じるとともに、各病院においても、会議等を通じて、各部署の課題や取組方針等についての情報を共有化し、また、各診療科への院長ヒアリング等を実施するなどにより、経営に関する目標達成状況の把握・管理を徹底した。

また、自己財源の確保対策として、収支改善による利益の確保とともに、積立金の運用方法を工夫するなどにより積立金の運用利益を確保したほか、価格交渉の徹底等により必要な医療機器を確保しつつ費用の抑制を図るなど、効率的な予算執行と自己財源の確保に努めた。

(2) 収支改善

福岡市立こども病院においては、新人看護師等の配置の関係から患者の受入調整等を行ったことで、年度当初は収入が減少したものの、7月以降、手術体制の見直しや、病棟別・診療科別病床稼働目標の設定など本格稼働に向けた取組を推進するとともに、救急患者受入体制を強化し、さらに治験業務の積極的な推進など増収を図ったことで、最終的に医業収益は平成26年度実績を上回った。

福岡市民病院においても、高度医療の更なる充実や効率的な病床管理等に努めるとともに、医師の増員及び循環器疾患等の救急患者の積極的受入などにより、難易度や専門性の高い手術、カテーテル治療及び検査件数が増加し、医業収益は平成26年度実績を上回った。

一方、費用削減対策については、両病院ともに外部コンサルタントを活用した診療材料等の調達に係る価格交渉の徹底、契約手法や委託業務の見直しの実施及びジェネリック医薬品の使用拡大などに取り組んだ。

これらの結果、市立病院機構全体では6,200万円余の当期純利益を確保した。

【医業収益】

(単位：千円)

区 分	平成26年度実績	平成27年度実績 ()は予算上の目標値	比較増減 ()は実績－目標値
福岡市立こども病院	5,597,058	7,502,357 (7,735,720)	1,905,299 (▲233,363)
福岡市民病院	5,310,619	5,738,642 (5,428,734)	428,023 (309,908)
法人全体	10,907,677	13,240,999 (13,164,454)	2,333,322 (76,545)

【営業費用】

(単位：千円)

区 分	平成26年度実績	平成27年度実績 ()は予算上の目標値	比較増減 ()は実績－目標値
福岡市立こども病院	7,168,794	8,549,118 (9,077,707)	1,380,324 (▲528,589)
福岡市民病院	5,486,237	6,020,117 (5,994,592)	533,880 (25,525)
法人全体	12,655,031	14,569,235 (15,072,299)	1,914,204 (▲503,064)

(注) 平成27年度決算より控除対象外消費税等及び資産に係る控除対象外消費税等償却の表示区分を営業外費用から営業費用に変更しているため、平成27年度実績値にはこれらの金額を含めていない。

区 分	控除対象外消費税等	資産に係る控除対象外消費税等償却
福岡市立こども病院	224,042千円	156,450千円
福岡市民病院	186,819千円	21,086千円
法人全体	410,861千円	177,536千円

【経常収支比率】

(単位：%)

区 分	平成26年度実績	平成27年度実績 ()は27年度目標値	比較増減 ()は実績－目標値
福岡市立こども病院	98.5	101.9 (98.9)	3.4 (3.0)
福岡市民病院	106.7	106.0 (104.4)	▲0.7 (1.6)
法人全体	102.1	103.5 (101.1)	1.4 (2.4)

第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置

(1) 新病院の整備及び運営に関する取組

市民に親しまれる病院づくりを推進するため、ホームページや広報誌等により、新病院の機能や運営状況等を積極的に情報発信したほか、市民や医療関係者等に対し最新の情報を提供するため、随時ホームページの更新を行った。

また、小児高度専門医療の更なる充実に向け、医師及び看護師等を増員するとともに、患者の受入調整を行っていた各センターや一般病棟について、早期に本格稼働できるよう新人看護師等の教育研修等を徹底するなど、体制の整備に取り組んだ。

さらに、周産期センターの医療機能強化のため、国家戦略特別区域法に基づく病床規制の特例を活用し、双胎間輸血症候群におけるF L P治療及びその周産期管理のための病床6床を産科病棟に増床した。

このほか患児家族滞在施設（ふくおかハウス）については、公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンの円滑な運営に向け、新たな寄付金の受入や生活必需品の支援等につながるよう積極的な視察受入等を通じてPRに取り組んだ。

(2) 福岡市民病院における経営改善の推進

経営改善の推進については、病院長を中心に徹底した経営管理を行いながら、病院一丸となって経営の効率化に努め、積極的な増収対策による医業収益の増加や徹底した費用削減に取り組んだ結果、医業収支比率は目標値を上回った。

また、医療面における取組としては、引き続き高度専門医療、高度救急医療の強化・充実を図ったほか、新たに感染症専門医を配置し感染症医療機能の充実を図るなど、市立病院として求められる役割を果たした。

【福岡市民病院 医業収支比較】

(単位：百万円)

区 分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
医業収益 (a)	3,998	4,526	4,881	5,039	4,886	5,311	5,739
営業費用 (b)	4,439	4,687	4,849	5,034	5,066	5,486	6,020 ^(注2)
差引 (a-b)	▲441	▲161	32	5	▲180	▲175	▲281
医業収支比率 (a/b)	90.1%	96.6%	100.7%	100.1%	96.4%	96.8%	^(注1) 95.3% (93.1%)

(注1) ()内は目標値。

(注2) 平成27年度決算から控除対象外消費税等及び資産に係る控除対象外消費税等償却の表示区分を営業外費用から営業費用に変更しているため、医業収支比率を算定するに当たっては、平成27年度の営業費用 (b) からこれらの金額を差引いている。

【主な目標値の達成状況】

区 分		福岡市立こども病院			福岡市民病院		
		27年度 目標値	27年度 実績値	達成率	27年度 目標値	27年度 実績値	達成率
患者 動向	1人1日当たり入院単価（円）	97,600	96,877	99.3	64,000	64,749	101.2
	1人1日当たり外来単価（円）	12,900	12,458	96.6	17,200	22,739	132.2
	1日当たり入院患者数（人） （病床利用率（％））	188.0 (80.7)	184.4 (78.0)	98.1 (96.7)	183.6 (90.0)	183.7 (90.1)	100.1 (100.1)
	新規入院患者数（人）	5,751	6,038	105.0	4,800	4,510	94.0
	平均在院日数（日）	11.9	10.2	116.7	11.7	12.6	92.9
	1日当たり外来患者数（人）	319.0	288.9	90.6	250.0	234.2	93.7
	1日当たり外来患者数（人）	319.0	288.9	90.6	250.0	234.2	93.7
医 業 活 動	手術件数（件）	2,444	2,447	100.1	3,000	3,060	102.0
	救急搬送件数（件）	1,000	1,028	102.8	3,000	2,620	87.3
	紹介率（％）	88.8	86.9	97.9	83.0	88.0	106.0
	逆紹介率（％）	50.0	50.2	100.4	120.0	147.0	122.5
	薬剤管理指導件数（件）	3,832	5,803	151.4	9,000	9,713	107.9
	栄養食事指導・相談件数（件）	340	476	140.0	1,100	1,220	110.9
患 者 満 足	退院時アンケート（福岡市立こども病院）	89.0	88.0	98.9	—	—	—
	患者満足度調査（福岡市民病院）	—	—	—	85.0	90.1	106.0
経 営 収 支	給与費対医業収益比率（％）	59.7	58.7	101.7	59.9	55.6	107.7
	材料費対医業収益比率（％）	18.4	21.1	87.2	25.8	30.0	86.0
	薬品費対医業収益比率（％）	6.6	8.0	82.5	8.2	12.4	66.1
	診療材料費対医業収益比率（％）	11.6	12.9	89.9	17.5	17.5	100.0
	委託料対医業収益比率（％）	11.1	9.9	112.1	7.2	6.4	112.5
	ジェネリック医薬品導入率（％）	7.5	9.7	129.3	30.0	31.9	106.3
	総収支比率（％）	98.2	99.8	101.6	103.7	101.3	97.7
	経常収支比率（％）	98.9	101.9	103.0	104.4	106.0	101.5
	医業収支比率（％）	87.4	87.8	100.5	93.1	95.3	102.4

（注） 平成27年度決算より控除対象外消費税等及び資産に係る控除対象外消費税等償却の表示区分を営業外費用から営業費用に変更しているため、医業収支比率の平成27年度実績値は営業費用からこれらの金額を差引いて算定している。

項目別の状況

中期目標(項目)	第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 医療サービス (1) 良質な医療の実践
中期計画	年度計画
第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 1 医療サービス (1) 良質な医療の実践 こども病院・感染症センター及び平成26年度開院予定の新病院並びに福岡市民病院が,それぞれに求められる役割を着実に果たすため,次のとおり診療機能の強化・充実に取り組む。 ア こども病院・感染症センター ① 小児医療(高度・地域・救急)を担う小児総合医療施設として高い水準の医療機能を維持する。 ② 新病院への円滑な移行に向けた準備を進める。 ③ 第一種・第二種感染症指定医療機関として,代替の医療機関が確保されるまでの間は,その役割を果たす。	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 1 医療サービス (1) 良質な医療の実践 福岡市立こども病院及び福岡市民病院が,それぞれに求められる役割を着実に果たすため,次のとおり診療機能の強化・充実に取り組む。 ア こども病院・感染症センター (平成26年11月1日移転)

中期目標(内容)	市立病院機構は、地域における医療水準の向上を図り、市民の健康の維持及び増進に寄与するため、福岡市における医療政策として求められる高度専門医療、救急医療等を提供すること。 また、その役割を安定的・継続的に果たすため、患者のニーズや医療環境の変化に即して、診療機能の充実や見直しを図ること。 ア こども病院・感染症センター 小児に係る地域医療及び高度専門医療を担う小児総合医療施設として高い水準の医療機能を維持するとともに、第一種・第二種感染症指定医療機関としての役割については、福岡県に対し、新病院開院に先立つ早期の指定辞退を届け出ているが、代替の医療機関が確保されるまでの間は、その役割を果たすこと。
-----------------	--

評価の判断理由(実施状況等)	自己評価		委員会の評価		
	ウエイト	評価	ウエイト	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
ア こども病院・感染症センター (平成26年11月 1 日移転)	—	—	—	—	

中期目標(項目)	第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 医療サービス (1) 良質な医療の実践
----------	--

中期計画	年度計画
第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 1 医療サービス (1) 良質な医療の実践 イ 新病院 ① 総合診療科や脳神経外科等を新設し、医療機能の強化を図る。 ② 産科や新生児集中治療室を拡充し、周産期医療の充実を図る。 ③ 診療体制を強化し、小児救急医療の充実を図る。	イ 福岡市立こども病院 ○ 小児医療の更なる充実を図るため、4月から脳神経外科、皮膚科及び小児歯科の常勤医師を配置し、診療を開始する。 ○ 平成26年度に発足した循環器センター（循環器科、心臓血管外科）、周産期センター（産科、NICU、GCU）及び手術部・集中治療センター（手術部、PICU、HCU）を早期に本格稼働させるとともに、各部門間の密接な連携に基づいた医療を実践し、重症患者の円滑な受け入れに取り組む。 ○ 周産期センターの医療機能強化のため、国家戦略特別区域法に基づく病床規制の特例を活用し、増床に向けて整備を推進する。 ○ 新生児科の医師を増員し、NICU、GCUの病床稼働率の向上を図る。 また、集中治療科に医師を配置し、PICU、HCUの病床稼働率の向上と効率的な運営を図る。 ○ 小児感染症科及び総合診療科の医師を増員し、時間外・休日の急患対応を強化する。 また、事務職員の当直についても、導入に向けた準備を進める。 ○ 入院患者や救急患者への投薬管理体制を強化し、安全性を向上させることを目的に、薬剤師を増員し、新たに薬剤部の当直体制を構築する。

中期目標（内容）	市立病院機構は、地域における医療水準の向上を図り、市民の健康の維持及び増進に寄与するため、福岡市における医療政策として求められる高度専門医療、救急医療等を提供すること。 また、その役割を安定的・継続的に果たすため、患者のニーズや医療環境の変化に即して、診療機能の充実や見直しを図ること。 イ 新病院 新病院においては、平成20年12月策定の新病院基本構想を踏まえ、総合診療科、脳神経外科、歯科口腔外科及び皮膚科を新設するとともに、産科を拡充し、こども病院としてこれまで培ってきた小児医療（高度・地域・救急）及び周産期医療の更なる充実を図ること。
-----------------	--

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		委員会の評価		
	ウエ イト	評 価	ウエ イト	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
イ 福岡市立こども病院 ○ 小児高度専門医療の更なる充実に向けて、4月から脳神経外科、皮膚科及び小児歯科にそれぞれ2人の常勤医師を配置して診療を開始した。 また、8月にアレルギー・呼吸器科を新設し日本アレルギー学会専門医を配置するとともに、診療科の連携による集学的・包括的な診療を目的として、7月に川崎病センター、10月にてんかんセンターを設立し、診療体制の強化を図った。 ○ 新人看護師等の配置の関係から、患者の受入調整を行っていた一般病棟については、職員の教育・指導の充実を図り、7月から本格稼働に移行した。 また、稼働病床数について、8月からGCU（最大24床）は12床から18床へ、11月からPICU（最大8床）は6床から7床、HCU（最大25床）は10床から12床へ拡充し、着実に体制の整備を進め、重症患者の円滑な受入に取り組んだ。 ○ 周産期センターの医療機能強化のため、国家戦略特別区域法に基づく病床規制の特例を活用し、9月に、双胎間輸血症候群におけるFLP治療及びその周産期管理のための病床6床を産科病棟に増床した（本件については、福岡市長表彰を受賞）。 ○ 新生児科の医師について、2人増員し5人体制としたほか、集中治療科に新たに医師を1人配置するなど診療体制の強化を図り、NICU等の実稼働病床に対する稼働率について、NICUは90%、GCUは69.1%、PICUは96.5%、HCUは76.2%となった。	2	4	2	4	集学的・包括的な診療のため、新たに川崎病センターやてんかんセンターを設置するなど診療体制の強化を図ったほか、国家戦略特区を活用した産科病床の6床増床、救急受入体制の強化による救急搬送件数の大幅増など、新病院の移転開院直後にも関わらず、年度計画を上回って実施している項目を積極的に評価し、「評価4」とする。

中期計画			年度計画		
【目標値】			【目標値】		
指標	平成23年度 実績値	平成28年度 目標値	指標	平成25年度 実績値	平成27年度 目標値
1人1日当たり 入院単価（円）	100,367	97,700	1人1日当たり 入院単価（円）	105,974	97,600
1人1日当たり 外来単価（円）	11,966	12,900	1人1日当たり 外来単価（円）	11,468	12,900
1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（％））	145.9 (76.8)	208.5 (89.5)	1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（％））	140.1 (73.7)	188.0 (80.7)
新規入院患者数（人）	4,899	6,400	新規入院患者数（人）	4,554	5,751
平均在院日数（日）	9.9	11.9	平均在院日数（日）	10.2	11.9
1日当たり 外来患者数（人）	276.7	387.4	1日当たり 外来患者数（人）	274.8	319.0
手術件数（件）	2,212	2,720	手術件数（件）	2,123	2,444
救急搬送件数（件）	639	1,020	救急搬送件数（件）	577	1,000
※平成23年度実績値は、こども病院・感染症センターの実績値			※平成25年度実績値は、こども病院・感染症センターの実績値を計上。以下同じ。		

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		委員会の評価																													
	ウ エ イ ト	評 価	ウ エ イ ト	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど																											
○ 小児感染症科及び総合診療科にそれぞれ2人の医師を増員するとともに、「福岡市内の小児救急患者受入困難“ゼロ”を目指す」という方向性のもと、福岡市内救急隊とのホットラインの開設、勤務体制の見直し等、救急受入体制を強化した結果、救急搬送件数は7月以降増加し、目標を達成した。 ○ 事務職員及び薬剤部の当直体制については、費用及び人員確保等の課題を踏まえ、平成28年度以降の導入に向けて検討を進めた。 ○ 主な目標値の達成状況については、入院単価、外来単価、入院・外来患者数で目標を下回ったが、新規入院患者数、平均在院日数、手術件数、救急搬送件数については目標を上回った。																																
【実績値】 <table><tr><th>指標</th><th>平成26年度 実績値</th><th>平成27年度 実績値</th></tr><tr><td>1人1日当たり 入院単価（円）</td><td>104,104</td><td>96,877</td></tr><tr><td>1人1日当たり 外来単価（円）</td><td>11,405</td><td>12,458</td></tr><tr><td>1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（%））</td><td>127.6 (61.4)</td><td>184.4 (78.0)</td></tr><tr><td>新規入院患者数（人）</td><td>4,242</td><td>6,038</td></tr><tr><td>平均在院日数（日）</td><td>10.0</td><td>10.2</td></tr><tr><td>1日当たり 外来患者数（人）</td><td>258.1</td><td>288.9</td></tr><tr><td>手術件数（件）</td><td>1,877</td><td>2,447</td></tr><tr><td>救急搬送件数（件）</td><td>589</td><td>1,028</td></tr></table>						指標	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	1人1日当たり 入院単価（円）	104,104	96,877	1人1日当たり 外来単価（円）	11,405	12,458	1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（%））	127.6 (61.4)	184.4 (78.0)	新規入院患者数（人）	4,242	6,038	平均在院日数（日）	10.0	10.2	1日当たり 外来患者数（人）	258.1	288.9	手術件数（件）	1,877	2,447	救急搬送件数（件）	589	1,028
指標	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値																														
1人1日当たり 入院単価（円）	104,104	96,877																														
1人1日当たり 外来単価（円）	11,405	12,458																														
1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（%））	127.6 (61.4)	184.4 (78.0)																														
新規入院患者数（人）	4,242	6,038																														
平均在院日数（日）	10.0	10.2																														
1日当たり 外来患者数（人）	258.1	288.9																														
手術件数（件）	1,877	2,447																														
救急搬送件数（件）	589	1,028																														
（注）平成26年度実績値は、旧病院と新病院の合算値を計上。以下同じ。																																

中期目標(項目)	第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 医療サービス (1) 良質な医療の実践
中期計画	年度計画
第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 1 医療サービス (1) 良質な医療の実践 こども病院・感染症センター及び平成26年度開院予定の新病院並びに福岡市民病院が、それぞれに求められる役割を着実に果たすため、次のとおり診療機能の強化・充実に取り組む。 ウ 福岡市民病院 ① 医療法で定められた医療計画における4疾病（がん，脳卒中，急性心筋梗塞及び糖尿病）への対応を中心に高度専門医療の更なる充実を図る。 ② 年々増加傾向にある救急患者を円滑に受け入れるとともに，交通事故等で頭部，脊椎，腹部などの複数部分に重度の損傷を負った多発外傷にも適切に対応できるよう救急診療室を拡張し，高度救急医療の強化充実を図る。 ③ 福岡県からの依頼に基づき，第二種感染症病床（4床）を設置するとともに，新型インフルエンザ等の感染症発生時においては，市立病院として，福岡市の対策における医療面での中核的な役割を担うなど，感染症医療機能の充実を図る。 ④ 上記の医療機能強化に対応するため，施設・設備の拡充を図る。	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 1 医療サービス (1) 良質な医療の実践 福岡市立こども病院及び福岡市民病院が，それぞれに求められる役割を着実に果たすため，次のとおり診療機能の強化・充実に取り組む。 ウ 福岡市民病院 ○ 4疾病（がん，脳卒中，急性心筋梗塞及び糖尿病）への対応を中心に高度専門医療の更なる充実を図るとともに，救急処置室の拡充を踏まえ，循環器救急患者の受け入れ拡大などによる救急部門の更なる体制強化を図る。 ○ 4月から感染症専門医を新たに配置し第二種感染症病床（4床）の有効活用を図る。 また，新型インフルエンザ等発生時においては，行政と連携し，迅速な対応が可能となるよう，新たな「感染・災害対策マニュアル」を策定するとともに，必要な体制を整備する。 ○ 外傷患者の増加に対応するため，引き続き外傷センターの開設を検討する。

中期目標(内容)	市立病院機構は、地域における医療水準の向上を図り、市民の健康の維持及び増進に寄与するため、福岡市における医療政策として求められる高度専門医療、救急医療等を提供すること。 また、その役割を安定的・継続的に果たすため、患者のニーズや医療環境の変化に即して、診療機能の充実や見直しを図ること。 ウ 福岡市民病院 高度専門医療を担う地域の中核病院としての機能を維持するとともに、高度救急医療の更なる充実を図ること。 また、新型インフルエンザ等の感染症発生時においては、福岡市における対策の中核的役割を果たすため、必要な対応を図ること。
----------	--

評価の判断理由(実施状況等)	自己評価		委員会の評価		
	ウエイト	評価	ウエイト	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
ウ 福岡市民病院 ○ 医療法で定められた医療計画における4疾病(がん、脳卒中、急性心筋梗塞及び糖尿病)への対応を中心に高度専門医療の更なる充実を図った。 特に、循環器領域においては、循環器内科医を2人増員し、循環器救急搬送患者の受入拡充を図り、当該領域の救急搬送件数(26年度249件→27年度265件)、心臓カテーテル検査・経皮的冠動脈形成術件数(26年度575件→27年度604件)及び経皮的カテーテル心筋焼灼術件数(26年度13件→27年度18件)が増加した。 また、脳卒中領域においても、脳血管内治療等を含む脳神経外科の手術件数(26年度190件→27年度229件)が増加した。 さらに、血管外科領域においても血管外科医1人を増員し、腹部大動脈瘤ステント挿入術等の難易度及び専門性の高い手術を行った。 ○ 感染症専門医を新たに2人配置するなど、感染症医療体制の整備を行うとともに、6月に新型インフルエンザ等対策特別措置法における「指定地方公共機関」の認定を受け、新型インフルエンザ等発生時において、行政と連携し、迅速な対応ができるよう、「感染・災害対策マニュアル」の策定や、福岡検疫所との合同訓練を2回実施した。 ○ 外傷センターについては、医師確保の課題等から開設を見合わせたが、重篤な外傷患者の受入は救急部において引き続き行った。 ○ 主な目標値の達成状況については、新規入院患者数、1日当たり外来患者数及び救急搬送件数は目標値を下回ったが、救急搬送後入院となった患者の重症者割合は増加した(26年度14.8%→27年度16.6%)。重篤な救急患者等の受入の結果、入院・外来単価及び手術件数は目標値を上回った。	2	4	2	4	循環器内科医を2人、感染症専門医を2人、血管外科医を1人増員するなど診療機能の充実・強化に取り組むとともに、循環器救急搬送患者の受入拡充を図ったことにより、循環器領域で手術件数やカテーテル治療等が増加するとともに、脳卒中領域でも手術件数が増加するなど、年度計画を上回って実施している項目を積極的に評価し、「評価4」とする。

中期計画			年度計画		
【目標値】			【目標値】		
指標	平成23年度 実績値	平成28年度 目標値	指標	平成25年度 実績値	平成27年度 目標値
1人1日当たり 入院単価（円）	57,617	64,500	1人1日当たり 入院単価（円）	59,254	64,000
1人1日当たり 外来単価（円）	15,413	16,000	1人1日当たり 外来単価（円）	16,141	17,200
1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（％））	186.0 (93.0)	184.0 (92.0)	1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（％））	177.9 (88.9)	183.6 (90.0)
新規入院患者数(人)	4,386	4,900	新規入院患者数(人)	4,349	4,800
平均在院日数（日）	12.6	11.6	平均在院日数（日）	11.8	11.7
1日当たり 外来患者数（人）	236.5	250.0	1日当たり 外来患者数（人）	242.8	250.0
手術件数（件）	2,619	2,750	手術件数（件）	2,761	3,000
救急搬送件数（件）	2,323	3,100	救急搬送件数（件）	2,472	3,000

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		委員会の評価																													
	ウ エ イ ト	評 価	ウ エ イ ト	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど																											
【実績値】 <table><tr><th>指標</th><th>平成26年度 実績値</th><th>平成27年度 実績値</th></tr><tr><td>1人1日当たり 入院単価（円）</td><td>63,763</td><td>64,749</td></tr><tr><td>1人1日当たり 外来単価（円）</td><td>17,609</td><td>22,739</td></tr><tr><td>1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（％））</td><td>179.5 (89.7)</td><td>183.7 (90.1)</td></tr><tr><td>新規入院患者数 （人）</td><td>4,647</td><td>4,510</td></tr><tr><td>平均在院日数（日）</td><td>11.9</td><td>12.6</td></tr><tr><td>1日当たり 外来患者数（人）</td><td>243.8</td><td>234.2</td></tr><tr><td>手術件数（件）</td><td>2,992</td><td>3,060</td></tr><tr><td>救急搬送件数（件）</td><td>2,835</td><td>2,620</td></tr></table>	指標	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	1人1日当たり 入院単価（円）	63,763	64,749	1人1日当たり 外来単価（円）	17,609	22,739	1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（％））	179.5 (89.7)	183.7 (90.1)	新規入院患者数 （人）	4,647	4,510	平均在院日数（日）	11.9	12.6	1日当たり 外来患者数（人）	243.8	234.2	手術件数（件）	2,992	3,060	救急搬送件数（件）	2,835	2,620					
	指標	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値																													
	1人1日当たり 入院単価（円）	63,763	64,749																													
	1人1日当たり 外来単価（円）	17,609	22,739																													
	1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（％））	179.5 (89.7)	183.7 (90.1)																													
	新規入院患者数 （人）	4,647	4,510																													
	平均在院日数（日）	11.9	12.6																													
	1日当たり 外来患者数（人）	243.8	234.2																													
	手術件数（件）	2,992	3,060																													
	救急搬送件数（件）	2,835	2,620																													

中期目標(項目)	第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 医療サービス (2) 地域医療への貢献と医療連携の推進
----------	--

中期計画	年度計画
第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとすべき措置 1 医療サービス (2) 地域医療への貢献と医療連携の推進 ① 地域医療体制の中核を担う地域医療支援病院としての役割を踏まえ、かかりつけ医等の支援を通じて地域医療への貢献に取り組む。 ② 地域の医療機関との連携・協力体制の充実を図り、病病・病診連携を積極的に推進する。	ア 福岡市立こども病院 ○ 小児医療の基幹病院及び地域医療体制の中核を担う地域医療支援病院として病病・病診連携を推進するとともに、症状の安定した患者については、積極的に地域の医療機関に逆紹介する。 ○ 福岡東部エリア（東区、糟屋地区）との新たな連携体制構築のため、地域の医療機関への広報等の充実、オープンカンファレンス等の利用促進に取り組むなど、連携強化を図る。 ○ 周産期センターの早期本格稼働を図り、県内における周産期ネットワークの一翼を担う。 ○ 地域における小児在宅医療の推進を支援するための取組を進めるとともに、後方医療機関等との連携構築に努め、移行期医療に係る受け皿の確保を図る。 ○ 更新したドクターカーを活用し、周産期センターにおける母体搬送や新生児搬送を含め、円滑な対応と患児の安全な搬送に努める。

中期目標(内容)	地域医療に貢献するため、地域の医療機関との連携・協力体制の更なる充実を図り、病病・病診連携を積極的に推進すること。
----------	---

評価の判断理由(実施状況等)	自己評価		委員会の評価		
	ウエイト	評価	ウエイト	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
ア 福岡市立こども病院 ○ 小児・周産期医療の基幹病院及び地域医療支援病院として積極的に病病・病診連携を推進した。また、周産期センターの人員体制を強化するとともに、ドクターカーの稼働を本格化し、地域の医療機関からの救急搬送を積極的に受け入れた。これらの取組は、地域医療支援病院の要件の一つである、年間1,000件以上の救急搬送者受入達成にもつながった(対前年度439件増)。 ○ 地域の医療機関等も参加するカンファレンスをはじめ、症例検討会等を定期的に開催するとともに、福岡都市圏各地域の開業医等への訪問(副院長、MSW等が計113回実施)に努めるなど病病・病診連携の強化を図った。 また、新たに粕屋医師会との連携強化を図り、開放型病床の登録医数は193人と大きく伸びた。 ○ 福岡県の「小児等在宅医療推進事業」を引き続き受託し、医療・福祉・教育分野との連携を推進し、地域で在宅療養を支える体制づくりに貢献した。特に、平成27年度は訪問看護ステーションの看護師とともに当院スタッフが患者宅を訪問する「同行訪問」を試行的に実施し、病院機能評価3rdG:Ver1.1(平成28年3月受審)で評価された。 ○ これらの取組の結果、主な目標値の達成状況については、逆紹介率、オープンカンファレンスの参加者数及び開放型病床への登録医数について目標値を上回った。	2	3	2	4	紹介率とオープンカンファレンスの回数がやや目標値を下回っているものの、その他の指標については、確実に目標値を達成していること、また、周産期センターの人員体制強化や年間1,000件以上の救急搬送患者受入、粕屋医師会との連携強化など、新病院開院後の変動期にありながら、地域の医療機関との連携強化に努めていることなどから総合的に勘案し、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期計画				年度計画			
【目標値】				【目標値】			
指標		こども病院（新病院）		指標		福岡市立こども病院	
		平成23年度 実績値	平成28年度 目標値			平成25年度 実績値	平成27年度 目標値
紹介率（%）		85.3	89.0	紹介率（%）		87.2	88.8
逆紹介率（%）		25.7	28.0	逆紹介率（%）		41.3	50.0
オープンカン ファレンス	回 数 （回）	33	36	オープンカン ファレンス	回 数 （回）	44	50
	参加者数 （人）	1,017	1,260		参加者数 （人）	1,160	1,210
開放型病床への登録 医数（人）		111	160	開放型病床への登録 医数（人）		154	155

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		委員会の評価																											
	ウ エ イ ト	評 価	ウ エ イ ト	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど																									
【実績値】 <table><tr><th colspan="2" rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>平成26年度 実績値</th><th>平成27年度 実績値</th></tr><tr><td colspan="2">紹介率（％）</td><td>91.8</td><td>86.9 (78.4)</td></tr><tr><td colspan="2">逆紹介率（％）</td><td>58.1</td><td>50.2</td></tr><tr><td rowspan="2">オープンカン ファレンス</td><td>回 数 (回)</td><td>40</td><td>45</td></tr><tr><td>参加者数 (人)</td><td>1,092</td><td>1,713</td></tr><tr><td colspan="2">開放型病床への登 録医数（人）</td><td>157</td><td>193</td></tr></table> (注) 紹介率について、平成27年度から算定式を 変更（（ ）内は、変更後の算定式による数値）。 《変更前算定式》 紹介患者数÷（初診患者数－救急搬送者等） 《変更後算定式》 （紹介患者数－救急搬送者等）÷（初診患者数－救急搬送者等）	指標		福岡市立こども病院		平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	紹介率（％）		91.8	86.9 (78.4)	逆紹介率（％）		58.1	50.2	オープンカン ファレンス	回 数 (回)	40	45	参加者数 (人)	1,092	1,713	開放型病床への登 録医数（人）		157	193					
指標			福岡市立こども病院																											
		平成26年度 実績値	平成27年度 実績値																											
紹介率（％）		91.8	86.9 (78.4)																											
逆紹介率（％）		58.1	50.2																											
オープンカン ファレンス	回 数 (回)	40	45																											
	参加者数 (人)	1,092	1,713																											
開放型病床への登 録医数（人）		157	193																											

中期目標(項目)	第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 医療サービス (2) 地域医療への貢献と医療連携の推進
----------	--

中期計画	年度計画
第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 1 医療サービス (2) 地域医療への貢献と医療連携の推進 ① 地域医療体制の中核を担う地域医療支援病院としての役割を踏まえ、かかりつけ医等の支援を通じて地域医療への貢献に取り組む。 ② 地域の医療機関との連携・協力体制の充実を図り、病病・病診連携を積極的に推進する。	イ 福岡市民病院 ○ 診療情報誌・季刊誌・各科診療案内・ホームページ等の媒体を使い、自院の診療内容・医療サービスや診療実績などの情報を患者や近隣の医療機関等にわかりやすく発信するとともに、地域の医療機能・医療ニーズを把握して適切な連携を行うことにより、紹介率、逆紹介率の向上を図る。 ○ 地域医療支援病院が果たす役割として、「かかりつけ医」等を支援し、地域医療を確保することが求められるため、紹介患者に対する最適な医療の提供や医療機器等の共同利用を促進するとともに、地域の医療従事者に対する専門的な医療知識や技術等に関する研修会や支援を継続して行う。 また、地域における医療・介護の連携に向け、診療所、訪問看護ステーション及び介護事業所等と協働して患者の状態に応じた質の高い医療を提供し、在宅医療充実に向けた診療を推進する。

中期目標（内容）	地域医療に貢献するため、地域の医療機関との連携・協力体制の更なる充実を図り、病病・病診連携を積極的に推進すること。
----------	---

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		委員会の評価		
	ウエイト	評価	ウエイト	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
イ 福岡市民病院 ○ 診療情報誌・季刊誌・各科診療案内・ホームページ等の媒体を使い、診療内容・医療サービスや診療実績などの情報を患者や近隣の医療機関等に発信するとともに、医師やMSW等による開放型登録医への定期的な訪問（計 84 回）を実施するなど、紹介率、逆紹介率の向上を図った。 ○ 地域医療支援病院としての役割を更に高めるため、地域医療連携室に事務職員を 1 人増員するとともに、紹介患者に対する最適な医療の提供や、大型医療機器等の共同利用を促進した。 また、他医療機関の新人看護師研修、緩和ケア研修会など医療従事者向けの専門知識・技術等に関する研修会等を実施した。 さらに、地域住民への健康教室出張セミナー（医療講演）を実施するとともに、患者の早期在宅復帰に向け、ケアマネージャーや介護認定支援施設との連携を強化した。 ○ 脳卒中等への病病連携にあたっては、多職種協働によるチーム医療を推進し、より質の高い医療を提供した。 ○ これらの取組の結果、主な目標値の達成状況については、すべての指標において目標値を上回った。	2	4	2	4	紹介率、逆紹介率などすべての指標で実績が目標値を上回っていることから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期計画				年度計画			
【目標値】				目標値】			
指標		福岡市民病院		指標		福岡市民病院	
		平成23年度 実績値	平成28年度 目標値			平成25年度 実績値	平成27年度 目標値
紹介率 (%)		79.9	83.0	紹介率 (%)		72.5	83.0
逆紹介率 (%)		74.2	88.0	逆紹介率 (%)		111.3	120.0
オープンカン ファレンス	回 数 (回)	30	36	オープンカン ファレンス	回 数 (回)	54	55
	参加者数 (人)	1,004	1,150		参加者数 (人)	1,363	1,450
開放型病床への登 録医数 (人)		127	140	開放型病床への登 録医数 (人)		149	160

中期目標(項目)	第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 医療サービス (3) 災害時等の対応
----------	---

中期計画	年度計画
第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 1 医療サービス (3) 災害時等の対応 ① 災害発生時やその他の緊急時においては、福岡市及び関係機関との連携の下、患者の受入や医療従事者の派遣など迅速かつ的確に対応し、市立病院としての役割を果たす。 ② 防災対策の点検や必要物品等の備蓄確認等を徹底し、災害対応に備えた万全な体制を維持する。 ③ 他の自治体等において大規模災害が発生した場合は、医療救護活動の支援に努める。	○ 市立病院としての役割を果たすため、福岡市地域防災計画等に基づく適切な対応が行えるよう体制を整えるとともに、院内防災マニュアルの周知や防災訓練の実施を通じ、職員の防災意識を高めるほか、非常用発電設備及び備蓄物品等の点検を徹底し、災害発生時の万全な対応に備える。 ○ 新病院における免震構造の完備、電力・通信インフラの2ルート化、津波・高潮対策として非常用発電機の上層階への設置等による様々な災害予防策とともに、新規に策定した消防計画・院内防災マニュアルの職員への周知及び総合防災訓練等を実施する。 また、福岡市民病院においては、新たに整備した救急診療棟を含めた院内防災マニュアルの策定、夜間帯を想定した防災訓練を実施する。 ○ 福岡市立こども病院においては、平成26年11月に全国の小児総合医療施設間で新たに組織された「広域災害時の相互支援システム」における九州地区の幹事施設として、衛星電話の設置などの準備を進める。 また、福岡市民病院においては、九州自治体病院災害相互応援協定を締結していることから、災害発生時において迅速に対応できるよう引き続き災害時派遣医療班を組織する。

中期目標(内容)	災害発生時やその他の緊急時において、福岡市地域防災計画、各種感染症の対策行動計画等に基づき、市立病院として迅速かつ的確に対応すること。 また、他の自治体等において大規模災害が発生した場合は、医療救護活動の支援に努めること。
----------	---

評価の判断理由(実施状況等)	自己評価		委員会の評価			
	ウエ イト	評 価	ウエ イト	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど	
○ 市立病院としての役割を果たすため、福岡市地域防災計画等に基づく予備電源用自家発電設備の点検や、医療機能を維持するための必要物品の備蓄（非常食、ヘルメット、拡声器等）、院内の防災マニュアル等の随時見直しなど、災害発生時を想定した対応準備に万全を期した。 ○ 福岡市立こども病院においては、大規模災害等に想定される停電時に備え、非常用発電設備からの電源供給に関する院内の設備について、停電時対応マニュアルを作成し、職員へ周知した。 また、消防計画に基づき、10月と2月に職員（委託業者を含む）を対象に、院内の消防設備や避難経路の説明、屋内消火栓の操作実習等の消防訓練を実施し、計271人が参加した。 さらに、日本小児総合医療施設協議会（JACHRI）広域災害相互支援システム委員会主催の衛星電話網模擬訓練に参加し、災害時の通信インフラ遮断時における、衛星電話による連絡手順を確認した。 ○ 福岡市民病院においては、救急診療棟を含めた院内防災マニュアルを新たに策定し、夜間帯を想定した避難誘導訓練と消火器操作訓練を各2回実施した。 また、九州各県の主要自治体病院との間で締結している「災害時における医療機関相互応援に関する協定」に基づき、引き続き院内に災害時派遣医療班を組織するとともに、災害時における通信手段として、衛星電話を新たに設置した。 この他、救急医療の更なるスキル向上に取り組み、突然の大事故や災害を想定した訓練の成果を競う「第9回福岡メディカルラリー」に出場し、通算3回目となる優勝を果たした。	1	3	1	3	市立病院としての役割を果たすため、必要物品の備蓄や防災マニュアルの見直し、メディカルラリーでの優勝など、災害発生時を想定した対応準備に万全を期していることから、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。	

中期目標(項目)	第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 2 患者サービス (1) 患者サービスの向上
----------	--

中期計画	年度計画																
第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 2 患者サービス (1) 患者サービスの向上 ① 患者満足度調査等を実施し、患者のニーズを的確に捉えた上で、より一層の患者サービスの向上を図る。 ② 院内環境の整備を進め、より快適な療養環境を提供する。 ③ 新病院については、より過ごしやすい療養空間を確保し、個室環境の整備とともに、患児家族滞在施設や駐車場の拡充を行うなど、利用者の利便性の向上を図る。	ア 福岡市立こども病院 ○ 新病院移転による療養環境の変化や設備・交通アクセス等に対する患者ニーズを把握するため、患者満足度調査の内容を改定のうえ継続的に調査を行い、患者サービスの向上に繋げる。 ○ 地域医療連携室において医療・福祉相談に引き続き取り組み、保健福祉行政機関とも連携しながら、各事案に応じて適切に対応する。 ○ 新病院における売店やレストラン等の利便施設の運営については、利用者の意見等を踏まえ、株式会社FCHパートナーズと協議しながら適切に対応する。 ○ 5月に開所予定の患児家族滞在施設（ふくおかハウス）については、家族が安心して滞在できるよう「公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン」の円滑な運営に協力する。																
【目標値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">こども病院（新病院）</th></tr><tr><th>平成23年度 実績値</th><th>平成28年度 目標値</th></tr><tr><td>退院時アンケート の平均評価点数 (100点満点)</td><td>88.0</td><td>90.0</td></tr></table> ※対象者・・・入院患者 ※評価項目・・・接遇，療養環境，食事内容等	指標	こども病院（新病院）		平成23年度 実績値	平成28年度 目標値	退院時アンケート の平均評価点数 (100点満点)	88.0	90.0	【目標値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>平成25年度 実績値</th><th>平成27年度 目標値</th></tr><tr><td>退院時アンケート の平均評価点数 (100点満点)</td><td>88.0</td><td>89.0</td></tr></table> ※対象者・・・入院患者 ※評価項目・・・接遇，療養環境，食事内容等	指標	福岡市立こども病院		平成25年度 実績値	平成27年度 目標値	退院時アンケート の平均評価点数 (100点満点)	88.0	89.0
指標		こども病院（新病院）															
	平成23年度 実績値	平成28年度 目標値															
退院時アンケート の平均評価点数 (100点満点)	88.0	90.0															
指標	福岡市立こども病院																
	平成25年度 実績値	平成27年度 目標値															
退院時アンケート の平均評価点数 (100点満点)	88.0	89.0															

中期目標（内容）	患者のニーズを的確に捉えるとともに、選ばれる病院であり続けるため、患者サービスの向上に努めること。 また、より快適な療養環境を提供するため、院内環境の整備を進めるなど、患者の利便性の向上を図ること。
----------	---

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		委員会の評価		
	ウエイト	評価	ウエイト	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
ア 福岡市立こども病院 ○ 退院時アンケートの結果等を踏まえ、付添者の駐車場料金の見直しや、地域及び関係機関とともにバス運行の拡充に関する要望活動等を行った。 ○ 地域医療連携室を中心として小児在宅医療推進WGを立ち上げるなど、患者の在宅支援に向け院内・院外の連携を強化し、退院に向けた患者支援をよりきめ細やかに、かつ計画的に実施することで、患児家族の不安解消に努めた。 ○ 売店やレストラン等の利便施設については、利用者の意見等を踏まえ、売店の弁当の種類等の充実や、レストランの案内表示（ルートサイン）の設置など、FCHパートナーズと連携し利用者のサービス向上に努めた。 ○ 患児家族滞在施設（ふくおかハウス）については、公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンの円滑な運営に向け、視察対応等を通じて、新たな寄付金の受入や生活必需品の支援等につながるよう積極的にPRを行った。 ○ 医療の国際化への対応として、福岡市在住又は観光旅行等で福岡を訪れている外国人患者が円滑に受診できるよう、説明文書や同意書等の医療文書の英訳に取り組んだ。	2	4	2	4	小児在宅医療推進ワーキンググループを立ち上げ、きめ細やかな患者支援を行ったほか、患者や病院施設利用の意見を踏まえ、駐車場料金の見直しや売店・レストランの利便性向上を図り、また、ふくおかハウスの運営に対する協力や外国人患者が円滑に受診できるような医療提供体制が整備されていることから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。
【実績値】					
指標	福岡市立こども病院				
	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値			
退院時アンケート の平均評価点数 （100点満点）	87.4	88.0			
（注）対象者・・・入院患者 評価項目・・・接遇，療養環境，食事内容等					

中期目標(項目)	第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 2 患者サービス (1) 患者サービスの向上
----------	--

中期計画	年度計画																
第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 2 患者サービス (1) 患者サービスの向上 ① 患者満足度調査等を実施し、患者のニーズを的確に捉えた上で、より一層の患者サービスの向上を図る。 ② 院内環境の整備を進め、より快適な療養環境を提供する。 ③ 新病院については、より過ごしやすい療養空間を確保し、個室環境の整備とともに、患児家族滞在施設や駐車場の拡充を行うなど、利用者の利便性の向上を図る。	イ 福岡市民病院 ○ 入院患者へのサービス向上のため、診療結果や職員の接遇及び療養環境等に関する患者満足度調査や外来待ち時間調査を実施し、その結果を踏まえながら、より一層のサービス向上を図る。 また、昨年度に引き続き入院ベッドを計画的に更新するなど療養環境の整備に努める。 ○ 外来患者へのサービス向上のため、外来スペースの更なる活用検討を行い、順次必要な改善を図る。 ○ 病院機能評価受審を機に再整備した患者・家族の意見・要望の収集、症例検討会、診療ガイドラインの活用、臨床指標の収集・分析、診療内容の標準化、クリニカルパスの作成・見直しなどの活動を通じて、診療面の質の改善のための取組を継続的にを行い、患者サービスの向上を図る。																
【目標値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>平成23年度 実績値</th><th>平成28年度 目標値</th></tr><tr><td>患者満足度調査における平均評価点数（100点満点）</td><td>76.0</td><td>80.0</td></tr></table> ※対象者・・・入院患者 ※評価項目・・・接遇，療養環境，食事内容，診療内容等	指標	福岡市民病院		平成23年度 実績値	平成28年度 目標値	患者満足度調査における平均評価点数（100点満点）	76.0	80.0	【目標値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>平成25年度 実績値</th><th>平成27年度 目標値</th></tr><tr><td>患者満足度調査における平均評価点数（100点満点）</td><td>91.3</td><td>85.0</td></tr></table> ※対象者・・・入院患者 ※評価項目・・・接遇，療養環境，食事内容，診療内容等	指標	福岡市民病院		平成25年度 実績値	平成27年度 目標値	患者満足度調査における平均評価点数（100点満点）	91.3	85.0
指標		福岡市民病院															
	平成23年度 実績値	平成28年度 目標値															
患者満足度調査における平均評価点数（100点満点）	76.0	80.0															
指標	福岡市民病院																
	平成25年度 実績値	平成27年度 目標値															
患者満足度調査における平均評価点数（100点満点）	91.3	85.0															

中期目標（内容）	患者のニーズを的確に捉えるとともに、選ばれる病院であり続けるため、患者サービスの向上に努めること。 また、より快適な療養環境を提供するため、院内環境の整備を進めるなど、患者の利便性の向上を図ること。
----------	---

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		委員会の評価										
	ウエイト	評価	ウエイト	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど								
イ 福岡市民病院 ○ 外来待ち時間調査の結果等を踏まえ、会計窓口を拡張するなど待ち時間短縮の取組を行った。 なお、平成27年度からすべての入院患者に対して実施することとした患者満足度調査では、年間を通して平均評価点数が目標値を上回った。 また、平成26年度に引き続き、入院ベッド40台の更新を行うなど、療養環境の整備・充実を図った。 ○ 外来患者の利便性向上を図るため、外来待合スペース内にあった面談室を移設し、待合スペースを拡充した。 ○ 診療面における質の改善のため、患者・家族の意見・要望の収集方法の改善をはじめ、症例検討会の開催、診療ガイドラインの更なる活用、臨床指標の収集・分析、診療内容の標準化、クリニカルパスの作成・見直しなどの取組を継続的に行い、患者サービスの向上を図った。 【実績値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>平成26年度 実績値</th><th>平成27年度 実績値</th></tr><tr><td>患者満足度調査における平均評価点数（100点満点）</td><td>91.2</td><td>90.1</td></tr></table> （注1）対象者…平成26年度 入院患者（1か月間×2回）平成27年度 全入院患者 評価項目…接遇、療養環境、食事内容、診療内容等 （注2）平成24年度までは、主として外来患者を対象に接遇面のみでの満足度調査を行っていたが、平成25年度からは、入院患者を対象に上記評価項目での満足度調査を行っている。	指標	福岡市民病院		平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	患者満足度調査における平均評価点数（100点満点）	91.2	90.1	2	3	2	4	会計窓口の拡張や待合スペースの拡充など外来患者の利便性に努めたほか、入院ベッドの更新など療養環境の整備を行った結果、患者満足度調査における平均評価点数が目標値を上回ったことから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。
指標		福岡市民病院											
	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値											
患者満足度調査における平均評価点数（100点満点）	91.2	90.1											

中期目標(項目)	第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 2 患者サービス (2) ボランティアとの共働
中期計画	年度計画
第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 2 患者サービス (2) ボランティアとの共働 ボランティアとの連携による植栽等の構内環境の整備や院内コンサートの実施など，市民・患者の視点に立ったサービス向上に取り組む。	ア 福岡市立こども病院 ○ ボランティアとの共働による構内環境の整備，院内コンサート及び病棟・外来ボランティア等の実施については，ボランティアコーディネーターの導入，活用も図りながら，引き続き拡大に努める。 また，院内にボランティア委員会を設置するとともに，新たに設置したボランティアルームを活用し，ボランティアの活動支援・連携強化に向けた体制整備を図る。

中期目標（内容）	ボランティアとの連携を図り，市民・患者の視点に立ったサービス向上のための取組を進めること。
----------	---

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		委員会の評価		
	ウエイト	評価	ウエイト	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
ア 福岡市立こども病院 ○ ボランティア活動の拡充を図るため，ボランティアコーディネーター養成研修に職員を派遣し，そのノウハウの習得に努めるとともに，ボランティアの今後の支援内容や受入体制の整備について，ボランティア委員会において検討を行った。 また，ボランティアルームを活動拠点として，クリスマスツリーの飾り付けなどボランティアとの共働による院内装飾を行うとともに，ボランティアイベント等の誘致促進を図り，院内コンサート（計18回）及び病棟訪問（計48回）を実施した。	1	3	1	3	職員によるボランティアコーディネーター養成研修の受講や院内委員会における支援内容の検討など，院内のボランティア受入体制整備に努めるとともに，ボランティアイベントの誘致促進を図るなどしていることから，年度計画を順調に実施していると判断されるため，「評価3」とする。

中期目標(項目)	第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 2 患者サービス (2) ボランティアとの共働
----------	--

中期計画	年度計画
第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 2 患者サービス (2) ボランティアとの共働 ボランティアとの連携による植栽等の構内環境の整備や院内コンサートの実施など，市民・患者の視点に立ったサービス向上に取り組む。	イ 福岡市民病院 ○ 大学サークル・市民団体等に積極的に出演交渉し，定期的に院内コンサート等を実施するとともに，患者の手助けなどを行う院内ボランティア（現在3名）を幅広く募集し，登録者の拡大を図る。

中期目標(内容)	ボランティアとの連携を図り，市民・患者の視点に立ったサービス向上のための取組を進めること。
----------	---

評価の判断理由(実施状況等)	自己評価		委員会の評価		
	ウエイト	評価	ウエイト	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
イ 福岡市民病院 ○ 地域や福岡大学のコーラスグループ等の協力により，院内コンサートを定期的の実施したほか，毎月1回，4～5人のボランティアの協力を得て，花の植え替え等花壇の手入れ作業を行った。 ○ 患者の手助けなどを行う院内ボランティアの登録者の拡大には至らなかったが，現体制（登録者2人）において，外来での患者のお世話や入院患者の話し相手，認知症患者の見守り等，患者とのふれあいを大切にした活動により，患者視点のきめ細やかな患者サービスが提供できた。	1	3	1	3	院内コンサートの定期的な実施や花壇の手入れなどを行うとともに，患者の手助けを行う院内ボランティアの活動により患者視点のきめ細やかな患者サービスが提供されていることから，年度計画を順調に実施していると判断されるため，「評価3」とする。

中期目標(項目)	第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 医療の質の向上 (1) 病院スタッフの確保と教育・研修
中期計画	年度計画
第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 3 医療の質の向上 (1) 病院スタッフの確保と教育・研修 ① 職員が働きやすい環境づくりを推進し、優れた人材の確保に努める。 ② 院内研修の充実を図るとともに、外部の専門研修等も活用しながら職員の資質向上を図る。 ③ 積極的に職員に資格取得を奨励し、専門職としての知識・技術の向上を図る。また、資格取得を支援する制度の充実に努める。	ア 福岡市立こども病院 ○ 医師事務作業補助者の業務体制見直しにより、医師の事務処理に係る負担をさらに軽減していくとともに、集中治療センター及び周産期センターに病棟クランクを拡充・配置し、集中治療部門における医療職の事務処理に係る負担軽減を図る。 ○ 看護師については、本格稼働に向けた必要人員を確保するとともに、2交代制勤務対象病棟の拡大を図るなど、職員が働きやすい環境づくりを推進する。 ○ 院内保育園の運営や近隣における職員宿舍の確保等、福利厚生面においても職員のワーク・ライフ・バランスを踏まえた対応を図り、優れた人材の確保に努める。 ○ 新規採用職員を対象とした情報セキュリティ研修、人権研修及び接遇研修のほか、院内研修についても、外部講師の活用等による内容の充実を図るとともに、多くの職員が受講できるよう、実施回数拡大に努める。 ○ スタッフの専門性や医療技術の向上を図るため、積極的に職員の資格取得を奨励する。また、認定看護師等資格取得支援制度を活用し、有資格者の拡大を図る。 ○ 平成28年3月に受審予定の病院機能評価3rdG：ver1.1に向け、病院が組織的に医療を提供するための基本的な活動（機能）が適切に実施されているかどうかを改めて検証し、その活動等を実施するための教育・研修体制を強化する。

中期目標(内容)	医療水準を向上させるため、医師や看護師を始め、優れた人材の確保に努めること。 また、研修体制の充実などにより、スタッフの専門性や医療技術の向上を図ること。
----------	--

評価の判断理由(実施状況等)	自己評価		委員会の評価			
	ウエ イト	評 価	ウエ イト	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど	
ア 福岡市立こども病院 ○ 新病院の本格稼働や脳神経外科、皮膚科、小児歯科及びアレルギー・呼吸器科の新設等に対応するため、4月から医師 24 人を増員するなど人員確保に努めた。 また、看護師 66 人、助産師 8 人を採用し、対前年度比で 57 人の増員を行うとともに、2交代制勤務をNICU及びGCUに拡大するなど、職員が働きやすい環境づくりを推進した。 なお、平成 28 年度職員採用に向け、従来から実施していた病院見学会に加えて、新たに学生を対象にインターンシップを開催し、190 人の参加を得た。 ○ ワーク・ライフ・バランス推進の観点から、福利厚生の実施等を行うため、看護職へ就業環境の現状を把握するためのインデックス調査を実施したほか、全職員へ夜間保育に関するアンケートを実施した（看護職員離職率 26 年度 9.4%→27 年度 6.8%）。 ○ 院内研修については、外部講師を活用して内容の充実を図り、患者の立場をテーマにした接遇研修、医療事故調査制度の施行に伴う医療安全研修、感染防止対策研修や針刺し防止研修会のほか、倫理研修や人権研修など、さまざまな研修を行い職員一人ひとりのスキルアップを図った。 また、市内在住や旅行客等の外国人患者が円滑に受診できるよう、全職員を対象に医療英語研修会を開催し、職員の語学力向上に取り組んだ。 さらに、小児科医を目指す医師の育成を目的とした初期研修医向けの勉強会や、小児科専門医を目指す全研修医向けのランチゼミを毎週開催し、次世代を担う小児科医の教育に取り組んだ。 ○ 認定看護師等資格取得制度を活用し、皮膚・排泄ケアの領域で 1 人が認定看護師資格を取得したほか、集中ケアの領域で 1 人が教育課程を修了した（当該支援制度による認定	2	4	2	4	新病院の本格稼働に向け、医師や看護師等を大幅に増員するとともに、院内研修について外部講師の活用などによる内容充実を図ったほか、全職員向けの医療英語研修会や小児科専門医を目指す後期研修医向けのランチゼミの開催など、様々な視点から教育・研修制度の充実を図っていることから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価 4」とする。	

中期計画	年度計画

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		委員会の評価		
	ウエ イト	評 価	ウエ イト	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
看護師資格取得者計3人）。 ○ 医師事務作業補助者の業務体制について、平成28年度に外来配置等を含めた見直しを行うため、他院の事例収集など準備を行ったほか、P I C UとH C Uで1人、N I C UとG C Uで1人、産科病棟に1人の病棟クレークを配置するなど、看護師等医療職の事務処理に係る負担軽減を図った。 ○ 病院機能評価3rdG:ver1.1の受審（平成28年3月）に向け、平成27年6月から説明会や勉強会を開催するなど病院全体で取り組む体制を整備し、医療のプロセスや記録の検証等を継続的に実施した結果、訪問審査時の講評において、概ね良好であるとの評価を得た。					

中期目標(項目)	第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 医療の質の向上 (1) 病院スタッフの確保と教育・研修
----------	--

中期計画	年度計画
第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 3 医療の質の向上 (1) 病院スタッフの確保と教育・研修 ① 職員が働きやすい環境づくりを推進し、優れた人材の確保に努める。 ② 院内研修の充実を図るとともに、外部の専門研修等も活用しながら職員の資質向上を図る。 ③ 積極的に職員に資格取得を奨励し、専門職としての知識・技術の向上を図る。また、資格取得を支援する制度の充実に努める。	イ 福岡市民病院 ○ 医療従事者の勤務環境の改善を図るため、ワーク・ライフ・バランス推進に継続的に取り組み、時間外勤務の縮減や人事制度の認知度向上に努めるなど、職員が働きやすい職場環境づくりを推進し、優れた人材の確保に努める。 ○ 新規採用職員を対象とした情報セキュリティー研修、人権研修及び接遇研修のほか、全職員を対象とした医療安全管理体制確保、院内感染対策、保険診療及びB L S研修等計画的な教育研修を実施するなど、院内研修の充実を図るとともに、外部の専門研修等も活用しながら職員の資質向上を図る。 ○ 看護部においては、認定看護師等資格取得支援制度を活用した積極的な資格取得を奨励し、専門職としての知識・技術の向上を図る。 また、各部門においても、必要スキルに合わせた資格取得を支援する制度の充実に努める。

中期目標(内容)	医療水準を向上させるため、医師や看護師を始め、優れた人材の確保に努めること。 また、研修体制の充実などにより、スタッフの専門性や医療技術の向上を図ること。
----------	--

評価の判断理由(実施状況等)	自己評価		委員会の評価			
	ウエ イト	評 価	ウエ イト	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど	
イ 福岡市民病院 ○ 4月から循環器内科医2人、血管外科医1人、臨床工学技士1人の増員を行い、高度専門医療の充実を図った。 また、感染症医療機能の充実のために感染症専門医を新たに2人配置するとともに、感染症病棟を含めた7対1看護体制の確保等のために、看護師についても対前年度比で19人の増員を行った。 ○ ワーク・ライフ・バランス推進にかかるプロジェクトチームを委員会に位置づけ、医療従事者の勤務環境の改善に継続的に取り組む体制を整備するなど職員が働きやすい職場環境づくりを推進した(看護職員離職率 26年度10.5%→27年度7.7%)。 また、病院の現状分析や、今後の取組計画の策定にあたって、福岡県の医療勤務環境改善支援センターからのアドバイザー派遣により、専門的かつ多角的な視点から意見を取り入れるなど、幅広く検討を進めた。 ○ 新規採用職員を対象とした採用時研修において、情報セキュリティ研修、人権研修及び接遇研修を実施するとともに、全職員を対象として、医療安全管理体制確保、院内感染対策、保険診療にかかる研修及びBLS研修等の教育研修を実施するなど、院内研修の充実を図った。 ○ 認定看護師等資格取得支援制度を活用し、感染管理の領域で1人が認定看護師の資格を取得したほか、手術看護、摂食・嚥下障害看護の領域で2人が教育課程を修了した(当該支援制度による認定看護師資格取得者計10人。認定看護師総計12人)。 また、4月に新たに整備した専門看護師の資格取得支援制度を活用し、がん看護の領域で1人が教育課程の受講を開始した(平成29年3月末終了予定)。 さらに、看護部門以外においても、資格取得を奨励し、薬剤師1人について、がん薬物療法認定薬剤師の資格を取得した。	2	4	2	4	医師や看護師等を増員するとともに、ワーク・ライフ・バランス推進プロジェクトの取組等により引き続き職員が働きやすい職場環境づくりを推進し看護職員離職率が低下(26年度10.5%→27年度7.7%)したほか、新たに創設した専門看護師の資格取得支援制度において1人が受講を開始するなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。	

中期目標(項目)	第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 医療の質の向上 (2) 信頼される医療の実践
----------	---

中期計画	年度計画
第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 3 医療の質の向上 (2) 信頼される医療の実践 ① 院内感染防止マニュアルの整備や定期的な院内感染対策委員会の開催などによる院内感染防止対策を徹底するとともに、医療安全管理者を中心としたリスクマネジメントや医療従事者への教育・研修を実施するなど、医療安全対策の徹底を図る。 ② クリニカルパスを活用した治療内容の可視化や十分な説明に基づくインフォームド・コンセントの徹底を図り、患者中心の医療を実践する。 ③ 薬剤師による薬剤管理指導や管理栄養士による栄養食事指導・相談を充実させ、安全・安心な医療を提供する。	ア 福岡市立こども病院 ○ 感染対策室、院内感染対策委員会及び感染制御チーム（ICT）の連携により、院内感染防止対策を徹底するとともに、医療安全管理者を中心としたリスクマネジメントや医療従事者への教育・研修を実施するなど、医療安全対策の徹底を図る。 ○ クリニカルパスの充実により、ケアの標準化、均質化を図り、医療の質の向上に努めるとともに、その活用による治療内容の可視化や十分な説明に基づくインフォームド・コンセントの徹底を図り、患者中心の医療を実践する。 ○ 薬剤師による薬剤管理指導や管理栄養士による栄養食事指導・相談を充実させるとともに、多職種による栄養サポートチーム（NST）により栄養管理の充実を図り、安全・安心な医療を提供する。 ○ 入院患者や救急患者への投薬管理体制の強化による安全性の向上を目的に、新たに薬剤師の当直を開始する。 ○ 病院機能の客観的な評価を踏まえた課題の明確化と改善への取組を実施するため、財団法人日本医療機能評価機構の病院機能評価の平成28年度更新に向け、病院内の体制等を検討する。 ○ 皮膚・排泄ケア認定看護師（WOCナース）を専従で配置し、重症患者等の褥瘡管理の強化に取り組む。 ○ 医療の質の向上のため、全国のこども病院と連携して、小児医療特有の「臨床指標」の策定に向けた取組を進める。

中期目標（内容）	市民に信頼される安全・安心な医療を提供するため、院内感染防止対策を確実に実施するとともに、医療事故に関する情報の収集・分析に努め、医療安全対策の徹底を図ること。 また、患者が自ら受ける医療の内容を理解し、納得の上で自分に合った治療法を選択できるよう、十分な説明に基づくインフォームド・コンセントを徹底するなど、患者中心の医療を実践すること。
----------	--

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		委員会の評価		
	ウエイト	評価	ウエイト	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
ア 福岡市立こども病院 ○ 専従の感染管理認定看護師を配置した感染対策室、院内感染対策委員会及び感染制御チーム（ICT）の連携を推進するとともに、地域の他医療機関との合同カンファレンスの開催や相互サーベイランスを実施するなど、感染防止対策の強化を図った。 また、医療安全管理室が主体となった医療安全院内研修を計6回実施するとともに、安全管理委員会における防止策の検討、情報収集及び改善策の策定など、医療安全対策の徹底を図った。 さらに、医療事故調査制度の施行に伴い、10月には院内死亡・死産事例検討会を設置し、検討を開始した。 ○ クリニカルパスを活用し、十分な説明を行うなど、インフォームド・コンセントの徹底を図り、患者の信頼向上を図った。 ○ 薬剤師による薬剤管理指導について、退院後の薬剤の服用に関する指導など、平成26年度に引き続き充実に努めるとともに、管理栄養士による栄養食事指導について、主治医及び病棟看護師とも連携しながら適切に指導を行い、いずれも目標件数を上回った。 また、11月から管理栄養士による糖尿病教室と、病棟における多職種による「食育・歯育・保育」の取組を開始した。 ○ 平成28年3月の病院機能評価3rdG:ver1.1の受審に向け、6月からカルテ記載に関する検討会を開催するなど病院全体で取り組む体制を整備し、医療のプロセスや記録の検証等を継続的に実施した結果、訪問審査時の講評においては、概ね良好な評価を得ることができた。 ○ 皮膚・排泄ケア認定看護師（WOCナース）を専従で配置し、重症患者等の褥瘡管理の強化に取り組むとともに、これまでの褥瘡対策チームから褥瘡対策委員会へと体制を強化し、皮膚科医師、WOCナース、管理栄養士、	2	4	2	4	院内死亡・死産事例検討会を設置するなど医療安全対策の充実に努めるとともに、管理栄養士など他職種による「食育・歯育・保育」の取組を開始したほか、医療の質向上のため全国のこども病院と連携して「臨床指標」を策定したこと、さらに、薬剤管理指導件数及び栄養食事指導・相談件数いずれも目標値を上回っていることから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期目標(項目)	第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 医療の質の向上 (2) 信頼される医療の実践
----------	--

中期計画	年度計画																						
【目標値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">こども病院（新病院）</th></tr><tr><th>平成23年度 実績値</th><th>平成28年度 目標値</th></tr><tr><td>薬剤管理指導件数 （件）</td><td>3,369</td><td>4,610</td></tr><tr><td>栄養食事指導・相 談件数（件）</td><td>278</td><td>340</td></tr></table>	指標	こども病院（新病院）		平成23年度 実績値	平成28年度 目標値	薬剤管理指導件数 （件）	3,369	4,610	栄養食事指導・相 談件数（件）	278	340	【目標値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>平成25年度 実績値</th><th>平成27年度 目標値</th></tr><tr><td>薬剤管理指導件数 （件）</td><td>3,315</td><td>3,832</td></tr><tr><td>栄養食事指導・相 談件数（件）</td><td>324</td><td>340</td></tr></table>	指標	福岡市立こども病院		平成25年度 実績値	平成27年度 目標値	薬剤管理指導件数 （件）	3,315	3,832	栄養食事指導・相 談件数（件）	324	340
指標		こども病院（新病院）																					
	平成23年度 実績値	平成28年度 目標値																					
薬剤管理指導件数 （件）	3,369	4,610																					
栄養食事指導・相 談件数（件）	278	340																					
指標	福岡市立こども病院																						
	平成25年度 実績値	平成27年度 目標値																					
薬剤管理指導件数 （件）	3,315	3,832																					
栄養食事指導・相 談件数（件）	324	340																					

中期目標（内容）	市民に信頼される安全・安心な医療を提供するため、院内感染防止対策を確実に実施するとともに、医療事故に関する情報の収集・分析に努め、医療安全対策の徹底を図ること。 また、患者が自ら受ける医療の内容を理解し、納得の上で自分に合った治療法を選択できるよう、十分な説明に基づくインフォームド・コンセントを徹底するなど、患者中心の医療を実践すること。
----------	--

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		委員会の評価													
	ウエイト	評価	ウエイト	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど											
薬剤師など多職種による活動を推進した。 ○ 医療の質の向上のため、全国のこども病院と連携して、小児医療特有の「臨床指標」を9項目策定し、試行を開始した。 【実績値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>平成26年度 実績値</th><th>平成27年度 実績値</th></tr><tr><td>薬剤管理指導件数 （件）</td><td>3,058</td><td>5,803</td></tr><tr><td>栄養食事指導・相談 件数（件）</td><td>245</td><td>476</td></tr></table>	指標	福岡市立こども病院		平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	薬剤管理指導件数 （件）	3,058	5,803	栄養食事指導・相談 件数（件）	245	476					
指標		福岡市立こども病院														
	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値														
薬剤管理指導件数 （件）	3,058	5,803														
栄養食事指導・相談 件数（件）	245	476														

中期目標(項目)	第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 医療の質の向上 (2) 信頼される医療の実践
中期計画	年度計画
第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 3 医療の質の向上 (2) 信頼される医療の実践 ① 院内感染防止マニュアルの整備や定期的な院内感染対策委員会の開催などによる院内感染防止対策を徹底するとともに、医療安全管理者を中心としたリスクマネジメントや医療従事者への教育・研修を実施するなど、医療安全対策の徹底を図る。 ② クリニカルパスを活用した治療内容の可視化や十分な説明に基づくインフォームド・コンセントの徹底を図り、患者中心の医療を実践する。 ③ 薬剤師による薬剤管理指導や管理栄養士による栄養食事指導・相談を充実させ、安全・安心な医療を提供する。	イ 福岡市民病院 ○ 感染症専門医を配置して、感染対策委員会及びICT委員会の活動をさらに強く推進し、医療関連感染制御に向けた体制を強化する。 ○ メディカル・リスク・マネジメント(MRM)を向上させるため、医療現場でも活用できる異業種の事例を参考にするなど、新しい手法を検討する。 ○ 「患者の権利」をホームページや院内掲示等で周知し、患者が治療内容をより理解できるよう、説明と同意の内容の実施手順及び説明手順を手直しするとともに、クリニカルパスを活用した事前説明を十分行うなど、患者中心の医療を実践する。 ○ 処方監査・調剤監査や持参薬の監査、病棟の薬品管理など、薬剤師による病院全体の薬剤の使用や管理を強化し、患者の安全管理体制を徹底する。 ○ 管理栄養士による栄養状態や摂食・嚥下機能の評価と対応など、患者の状態に応じた栄養管理と食事指導を実施し、栄養サポートチーム(NST)でも多職種による栄養指導、薬剤管理指導、摂食機能療法を更に充実させ、安心、安全な医療を提供する。 ○ 各種病院団体が集計する「病院指標」、「臨床指標」について、優良病院との比較を行いながら、病院全体の医療の質向上に向けて取り組む。

中期目標（内容）	市民に信頼される安全・安心な医療を提供するため、院内感染防止対策を確実に実施するとともに、医療事故に関する情報の収集・分析に努め、医療安全対策の徹底を図ること。 また、患者が自ら受ける医療の内容を理解し、納得の上で自分に合った治療法を選択できるよう、十分な説明に基づくインフォームド・コンセントを徹底するなど、患者中心の医療を実践すること。
----------	--

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		委員会の評価		
	ウエイト	評価	ウエイト	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
イ 福岡市民病院 ○ 感染症専門医を新たに2人配置し、院内感染対策委員会及び感染制御チーム（ICT）の連携により、院内感染防止対策を徹底するとともに、他病院と感染対策に関する情報交換を行った（カンファレンス4回・外部参加者数130人）。 ○ 医療安全管理者を中心としたリスクマネジメントや医療従事者への教育・研修を実施するとともに、RRS（Rapid Response System：院内心停止になる前に早期に介入することで予後を改善するシステム）等の新しい手法を用い、医療安全対策の徹底を図った。 ○ クリニカルパスの活用により、標準化・均質化及び治療内容の可視化を図り、医療の質の向上に努めた（パス適応率：26年度45.8%→27年度52.3%）。また、十分な説明に基づくインフォームド・コンセントの徹底を図り、患者中心の医療を実践した（診療内容説明・同意書の様式：26年度194種類→27年度217種類）。 ○ すべての病棟に担当薬剤師を配置し、処方監査・調剤監査や持参薬の監査のほか、病棟の薬品管理及び服薬指導等の薬剤管理業務を適切に行い、引き続き安全管理体制を徹底した。 また、投薬事故防止に向けた活動に取り組み、プレアボイド（薬剤師がチーム医療の中で服薬指導や薬歴管理を行った結果、薬の副作用・相互作用を回避し、患者の安全管理に寄与した実例）として274件の指摘を行った。 ○ 管理栄養士による栄養状態や摂食・嚥下機能の評価及びその対応など、患者の状態に応じた栄養管理と食事指導を実施するとともに、栄養サポートチーム（NST）内の医師、看護師及びコメディカルの更なる連携強化を図り、栄養面について各職種の専門性を活かした診療支援を行った。 ○ 全国自治体病院協議会主催の「医療の質の評価・公表等推進事業」及び日本病院会主催の「QIプロジェクト」に参加し、病院指標・臨床指標に関するベンチマークによる比較評価を行い、医療の質向上に取り組んだ。	2	4	2	4	RRS等の新たな手法を用い医療安全対策の徹底を図ったほか、クリニカルパス適応率の向上、すべての病棟への薬剤師配置を行ったことに加え、薬剤管理指導件数及び栄養食事指導・相談件数のいずれも目標値を上回っていることから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期計画	年度計画																						
【目標値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>平成23年度 実績値</th><th>平成28年度 目標値</th></tr><tr><td>薬剤管理指導件数 (件)</td><td>8,644</td><td>8,700</td></tr><tr><td>栄養食事指導・相 談件数 (件)</td><td>1,047</td><td>1,100</td></tr></table>	指標	福岡市民病院		平成23年度 実績値	平成28年度 目標値	薬剤管理指導件数 (件)	8,644	8,700	栄養食事指導・相 談件数 (件)	1,047	1,100	【目標値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>平成25年度 実績値</th><th>平成27年度 目標値</th></tr><tr><td>薬剤管理指導件数 (件)</td><td>8,998</td><td>9,000</td></tr><tr><td>栄養食事指導・相 談件数 (件)</td><td>1,140</td><td>1,100</td></tr></table>	指標	福岡市民病院		平成25年度 実績値	平成27年度 目標値	薬剤管理指導件数 (件)	8,998	9,000	栄養食事指導・相 談件数 (件)	1,140	1,100
指標		福岡市民病院																					
	平成23年度 実績値	平成28年度 目標値																					
薬剤管理指導件数 (件)	8,644	8,700																					
栄養食事指導・相 談件数 (件)	1,047	1,100																					
指標	福岡市民病院																						
	平成25年度 実績値	平成27年度 目標値																					
薬剤管理指導件数 (件)	8,998	9,000																					
栄養食事指導・相 談件数 (件)	1,140	1,100																					

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		委員会の評価													
	ウエ イト	評 価	ウエ イト	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど											
○ 目標値の達成状況については、両指標とも、 目標件数を上回った。 【実績値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>平成26年度 実績値</th><th>平成27年度 実績値</th></tr><tr><td>薬剤管理指導件数 （件）</td><td>9,378</td><td>9,713</td></tr><tr><td>栄養食事指導・相 談件数（件）</td><td>1,199</td><td>1,220</td></tr></table>	指標	福岡市民病院		平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	薬剤管理指導件数 （件）	9,378	9,713	栄養食事指導・相 談件数（件）	1,199	1,220					
指標		福岡市民病院														
	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値														
薬剤管理指導件数 （件）	9,378	9,713														
栄養食事指導・相 談件数（件）	1,199	1,220														

中期目標(項目)	第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 医療の質の向上 (3) 法令遵守と情報公開
中期計画	年度計画
第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 3 医療の質の向上 (3) 法令遵守と情報公開 ① 関係法令や内部規定の遵守などコンプライアンスを徹底するとともに、内部統制を確実に実施することにより、適正な病院運営を行う。 ② 個人情報保護及び情報公開に関しては、福岡市の関係条例等及び当法人の情報セキュリティポリシーに基づき、適切に対応する。 ③ 法人の経営状況、両病院の役割や医療内容のほか、地域の医療機関との連携等について、ホームページや広報誌等を通じ、積極的な情報発信に取り組み、市民に開かれた病院づくりを進める。	○ 関係法令や内部規定の遵守などコンプライアンスを徹底するとともに、監事（弁護士、公認会計士）及び平成27年度より設置される会計監査人による監査に加え、外部の監査法人と連携して業務管理や会計処理等に関する監査を実施するなど、内部統制を確実に実施するほか、病院として医療法、施設基準等を遵守するなど適正な病院運営を行う。 ○ 個人情報保護及び情報資産に関しては、福岡市の関係条例等及び当法人の情報セキュリティポリシーに基づき、適切に対応するとともに、研修等を通じて職員の教育を徹底するほか、カルテ等の情報公開に関しては、診療録開示委員会を開催して開示の可否を決定する。 ○ 法人の経営状況、各病院の役割や医療内容のほか、地域の医療機関との連携等について、ホームページや広報誌等を通じ、積極的な情報発信に取り組み、市民に開かれた病院づくりを進める。 ○ 新病院の開院に合わせてリニューアルしたホームページについては、市民や医療関係者等に対し最新の情報を発信するため、掲載内容の充実を図るほか、病院の医療機能や診療実績等について、広く市民等に情報発信を行うため、分かりやすい「病院指標」の公開を行う。

中期目標（内容）	市立病院としての使命を適切に果たすため、医療法を始めとする関係法令を遵守することはもとより、行動規範と倫理を確立し、適正な病院運営を行うこと。 また、個人情報保護及び情報公開に関しては、福岡市個人情報保護条例（平成17年福岡市条例第103号）及び福岡市情報公開条例（平成14年福岡市条例第3号）に基づき、適切に対応すること。 さらに、病院の役割や医療内容等を積極的に情報発信するなど、市民に開かれた病院づくりに努めること。
----------	--

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		委員会の評価		
	ウエイト	評価	ウエイト	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
○ 市立病院機構全体の業務の適正及び効率性の検証を行うため、監事（弁護士、公認会計士）による業務監査及び会計監査の実施に加え、運営本部による業務管理に関する監査を実施するなど、内部統制の充実を図った。 ○ 不祥事防止及びコンプライアンスの推進を図るため、院長訓示をはじめ職員対話を実施したほか、監督者研修や主任級職員研修など様々な機会を通じて職員の服務規律の指導を徹底し、地方独立行政法人職員として有すべき行動規範と倫理観の確立に努めた。 ○ 個人情報保護及び情報公開に関しては、福岡市の関係条例等及び当機構の情報セキュリティポリシーに基づき、適切に対応するとともに、研修等を通じて職員の教育を徹底した。 また、カルテ等の情報公開については、両病院ともに診療録（カルテ）開示委員会を開催して開示の可否を決定した（福岡市立こども病院18件、福岡市民病院67件）。 ○ 福岡市立こども病院においては、ホームページを用いた情報発信、広報誌「みらい」や病院案内パンフレットの発行について、継続して取り組むとともに、10月には「アイランドシティまちびらき10周年」事業と連携して、双子をテーマにした、こども病院研究基金記念講演会を開催し、150人以上の市民の参加を得た。 また、各診療科の医師が交代で、産経新聞と読売新聞にコラム掲載を行い、小児医療に関するトピックス等について、分かりやすく情報発信を行った。 ○ ホームページについては、市民や医療関係者等に対し最新の情報を発信するため、新着情報の更新等を行った。また、病院の医療機能や診療実績等に関する「病院指標」の公開について、D P Cにおける機能評価係数での評価が始まる平成29年度に向けて準備を進めた。 ○ 福岡市民病院においても、院内活動をまとめた年報「アイリス」や診療情報誌「ふれあい」、季刊誌「F C H」を発行するとともに、診療	1	3	1	3	不祥事防止及びコンプライアンスの推進を図るため院長訓示や職員対話など様々な機会を通じて職員の服務規律の指導を徹底するとともに、両病院ともホームページや広報誌、講演会等により分かりやすい情報発信に努めていることから、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期計画	年度計画

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		委員会の評価		
	ウエイト	評価	ウエイト	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
科ごとのパンフレットを作成し、近隣のクリニックや病院へ配布するなど、病院の役割や医療内容等の情報を発信した。 あわせて随時ホームページの更新を行うなど、市民に開かれた病院づくりを行った。					

中期目標(項目)	第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項 1 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実
----------	---

中期計画	年度計画
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 1 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実 ① 理事会を適正に運営し, 外部理事等の助言に基づく民間的経営手法も取り入れながら自律的な法人経営を行う。 ② 医療情勢の変化や患者のニーズに効果的な対応ができるよう, 病院長のリーダーシップの下, 各病院の実態に即した機動性の高い病院経営を行う。	○ 理事会を適正に運営し, 外部理事等の助言に基づく民間的経営手法も取り入れながら自律的な法人経営を行う。 ○ 医療情勢の変化や患者のニーズに効果的な対応ができるよう, 病院長のリーダーシップの下, 各病院の実態に即した機動性の高い病院経営を行う。

中期目標（内容）	地方独立行政法人制度の特長を活かし、各病院が自らの特性や実情を踏まえ、より機動的に業務改善ができるよう、各病院において病院長がリーダーシップを発揮し、自律性を発揮できる運営管理体制の充実を図ること。
----------	---

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		委員会の評価		
	ウエイト	評価	ウエイト	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
○ 市立病院機構の運営を的確に行うため、理事会を計10回開催し、理事会の決定方針に沿った運営を行った。 ○ 福岡市立こども病院においては、病院長のリーダーシップの下、4月から新たに執行部会議（院長、副院長、診療統括部長、事務部長、看護部長ほか）を週1回開催し、医療の充実と健全な病院経営に向けた協議、立案等を行うとともに、診療体制の充実に向け、7月に川崎病センター、10月にてんかんセンターを設置するなど、集学的・包括的な治療体制の構築を図り、自律的・機動的な病院経営を行った。 また、院内の主要会議や委員会の組織体制を見直し、ガバナンス強化を図った。 ○ 福岡市民病院においても、病院長のリーダーシップの下、医療情勢の変化や患者のニーズに効果的な対応ができるよう、経営五役会議や所属長会議等において、情報の共有化を図り、病院の実態に即した機動性の高い病院経営に取り組んだ。	1	3	1	3	市立病院機構の運営を的確に行うため、理事会を計10回開催し、理事会の方針決定に沿った運営を行った。また、両病院とも、病院長のリーダーシップの下、幹部会議の定期的な開催や組織体制の見直しなど機動性の高い病院経営に取り組んでいることから、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期目標(項目)	第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項 2 事務部門等の専門性の向上
中期計画	年度計画
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 2 事務部門等の専門性の向上 ① 病院経営に関する知識・経験を有する人材をプロパー職員として計画的に採用し、事務部門及び経営管理部門の専門性の向上を図る。 ② 医療を取り巻く情報を的確に収集・分析し経営に反映するなどの戦略機能を強化するため、経営に関する研修やO J T (On the Job Training) の充実を図り、経営感覚に優れた職員の育成に努める。	○ 独立行政法人化以降に採用した事務職員について、職員個々の能力向上を図るとともに、事務部門、経営管理部門の活性を図るため、両病院、運営本部間の人事異動を積極的に行う。 また、病院経営に関する研修やO J T (On the Job Training) の充実を図ることで、事務部門及び経営管理部門の専門性の向上及び経営感覚に優れた職員の育成に努める。

中期目標(内容)	事務部門等においては、病院運営に関する専門知識や経営感覚を持ったプロパー職員の計画的な採用に努めるとともに、経営手法の企画・立案に関する戦略機能を強化するため、各病院の経営支援を的確に行える人材の育成に努めること。
----------	---

評価の判断理由(実施状況等)	自己評価		委員会の評価		
	ウエイト	評価	ウエイト	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
○ 事務局全体の機能強化を図るため、事務職員の人材育成・活性化のための方向性と具体的な取組を示した「事務職員人材育成プラン」を踏まえ、両病院及び運営本部の事務局間において人事異動を実施した。 ○ マネジメント能力向上等を目的として、全職種を対象とした監督者研修のほか、主任級職員に対する研修を実施した。 ○ 福岡市立こども病院においては、事務職員を対象に、業務研修をはじめ倫理研修や人権研修等を実施した。 ○ 福岡市民病院においては、病院経営に関するスキルアップのため、毎年、中堅職員を対象に一般社団法人日本病院会が開催する「病院中堅職員育成研修」に参加させており、「経営管理コース」を1人が受講した。	1	3	1	3	「事務職員人材育成プラン」を踏まえた人事異動や管理監督者・主任級を対象とした研修の実施、中堅職員を対象とした外部研修への参加など、事務局全体の機能強化に努めていることから、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期目標(項目)	第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項 3 意欲を引き出す人事・給与制度等の導入
----------	--

中期計画	年度計画
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 3 意欲を引き出す人事・給与制度等の導入 ① 職員満足度調査等の実施により職員のニーズを把握し、職員の意欲を引き出す人事制度を構築するとともに、福利厚生の実施や職場環境の改善に努める。 ② 病院の業績を考慮し、かつ、社会一般の情勢に適合した給与制度を維持し、人件費の適正化を図る。 ③ 職員の業績や貢献度等を適正に評価し、評価結果を給与に反映させる人事評価制度について、医師に本格導入するとともに、他の職種への導入についても検討を進める。	○ 職員のニーズに対応した福利厚生の実施や職場環境の改善に努めるめるとともに、職員の意欲を引き出す人事制度を構築する。 ○ 病院の業績を考慮し、かつ、社会一般の情勢に適合した給与制度を維持し、人件費の適正化を図る。 ○ 医師以外の職種についても、職員の業績や貢献度等を適正に評価し、最終的には処遇面等に活かすことで職員の意欲の維持・向上及び業務運営の改善を図ることを目的に、管理職を対象に目標管理制度を試行する。

中期目標（内容）	職員の意欲を引き出す人事制度を構築し、職員の業績や能力を的確に評価するための公正かつ客観的な人事評価システムの導入に努めること。 また、病院の業績等に応じた給与制度を導入し、職員のモチベーションの維持・向上及び人件費の適正化を図ること。 さらに、福利厚生の実施や職場環境の整備など、職員が働きやすい環境の確保に努めること。
----------	--

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		委員会の評価		
	ウエイト	評価	ウエイト	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
○ 病院の業績を考慮し、かつ、社会一般の情勢に適合した給与制度とするため、人事院勧告等を踏まえた給料表や諸手当等の改定を行った。 ○ 平成27年度から試行を開始した医師以外の管理職を対象とする管理職目標管理制度について、将来的には職員の業績や貢献度等を給与に反映できるよう、評価手法や目標設定のあり方等について関係者から意見を聴取し検討を進めた。 ○ 福岡市立こども病院においては、ワーク・ライフ・バランス推進の観点から、看護職へのインデックス調査や、全職員への夜間保育に関するアンケートを実施した。 また、院長表彰制度を新たに整備し、団体2件及び個人2件について表彰を行った。 ○ 福岡市民病院においては、ワーク・ライフ・バランス推進委員会において、全職員を対象とした人事制度説明会を開催したほか、各所属への要望調査の結果等を踏まえ、年次有給休暇の取得率向上に向けた取組を開始した。	1	3	1	3	医師以外の管理職を対象とする管理職目標管理制度の試行や両病院におけるワーク・ライフ・バランスの推進など、職員の意欲を引き出す取組を行っていることから、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期目標(項目)	第4 財務内容の改善に関する事項 1 経営基盤の強化 (1) 運営費負担金の縮減に向けた経営基盤の確立
中期計画	年度計画
第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置 1 経営基盤の強化 (1) 運営費負担金の縮減に向けた経営基盤の確立 ① 運営費負担金の対象となる不採算医療部門については、収支差の圧縮に向けた更なる経営の効率化に取り組み、運営費負担金の縮減に努める。 ② 新病院の開院に伴う施設整備費の償還など、今後、運営費負担金の増額要因が加わるため、新病院稼働後は早期の安定経営を目指すことに加え、市立病院機構全体でこれまで以上の経営努力を行う。	○ 運営費負担金の縮減に向けた経営基盤を確立するため、不採算医療部門については、収支差の圧縮に向け、経営改善のために取り組むべき課題を明確にし、増収及び費用削減に取り組むとともに、月次決算の実施など経営に関する情報を迅速に把握し、部門ごとの経営状況の分析や他病院との比較分析を行うなど、効率的な病院経営を行う。 また、部門ごとに具体的な目標を設定し、その達成状況を適宜確認するなど経営管理を徹底する。 ○ 新病院の開院に伴う施設整備費の償還などに伴い増額した運営費負担金の抑制に向け、新病院の経営を早期に安定させることに加え、市立病院機構全体でこれまで以上の経営努力を行い、経営基盤の確立に努める。 また、病院移転後の跡地については、建物の解体工事に着手するとともに、土地の売却について検討を進めていく。 ○ 福岡市立こども病院においては、福岡市と連携しながら、国・県その他関係機関に対し必要な要望を行い、運営費等に係る補助金及び助成金の確保・拡大に努める。

中期目標（内容）	福岡市の厳しい財政状況を踏まえると、引き続き市立病院機構全体の運営費負担金の縮減が求められることから、更なる経営の効率化や健全化に向けた取組を進め、安定した経営基盤を確立すること。
----------	--

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		委員会の評価		
	ウエイト	評価	ウエイト	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
○ 毎月、市立病院機構の経営幹部（理事長，副理事長，運営本部長，病院事務部長，看護部長）で構成する「経営会議」を開催し，月次の経営管理諸表により，随時，経営状況を検証するとともに，四半期ごとに課題を分析のうえ，適切な改善策を講じるなどの経営管理を徹底した。 また，各病院においても，病床利用率の向上をはじめ喫緊の課題への対応など更なる経営改善に向けて，「執行部会議」「経営五役会議」など定期的に開催し，積極的な増収対策や費用削減とあわせ効率的な病院経営について検討を重ねた。 福岡市民病院においては，毎月の所属長会議において，病院全体及び部門ごとに設定した各目標の実績を取りまとめたモニタリング資料を提示し，その達成状況を確認するとともに，目標未達事項について検討を行うなど，病院全体で経営管理の徹底に努めた。 ○ 運営費負担金の抑制に向け，新病院の経営を早期に安定させるため，各センターや病棟の早期本格稼働に取り組み，経営基盤の確立に努めた。 また，旧病院建物の解体工事に向け準備を進めるとともに，土地の売却について検討を行った。 ○ 福岡市立こども病院においては，福岡市と連携しながら，福岡県で新設された小児医療高度化支援事業費補助金（先天性心疾患などの治療に対応可能な高度専門小児医療機関への支援）の新規確保に努め，交付が決定した（27年度：4,000万円余）。	2	3	2	3	病院機構の経営会議により経営状況の検証や課題の分析を行うとともに，両病院においても幹部会議にて病床利用率の向上をはじめ喫緊の課題等への対応を図っている。また，福岡県による新設補助金の獲得など経営基盤の確立に努めていることから，年度計画を順調に実施していると判断されるため，「評価3」とする。

中期目標(項目)	第4 財務内容の改善に関する事項 1 経営基盤の強化 (2) 投資財源の確保
-----------------	--

中期計画	年度計画
第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置 1 経営基盤の強化 (2) 投資財源の確保 独立採算制を前提とした公営企業型地方独立行政法人の会計制度の趣旨に鑑み、今後の投資計画を踏まえた自己財源の確保に努める。	○ 独立採算制を前提とした公営企業型地方独立行政法人の会計制度の趣旨に鑑み、今後の施設整備や高額医療機器の更新等に関する計画を踏まえた自己財源の確保に努める。

中期目標(内容)	施設整備や高額医療機器の更新など、今後の投資計画を踏まえながら、自己財源の確保に努めること。
----------	--

評価の判断理由(実施状況等)	自己評価		委員会の評価			
	ウエイト	評価	ウエイト	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど	
○ 自己財源の確保対策として、収支改善による利益の確保とともに、複数の金融機関を対象に定期預金の利率の入札を継続して実施し、積立金運用益の確保を図った。 ○ 今後の施設整備や高額医療機器の更新等を見据え、価格交渉の徹底等により必要な医療機器を確保しつつ費用の抑制を図るなど、効率的に予算を執行し、自己財源の確保に努めた。	1	3	1	3	収支改善による利益確保や定期預金利率に関する入札の継続実施などで自己財源の確保を行うとともに、価格交渉の徹底による費用抑制など効果的な予算執行に努めていることから、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。	

中期目標(項目)	第4 財務内容の改善に関する事項 2 収支改善 (1) 増収
中期計画	年度計画
第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置 2 収支改善 (1) 増収 ① 診療体制の充実等による医療の高度化に取り組むとともに、効率的な病床管理や高度医療機器の稼働率向上に努め、収入増を図る。 ② 診療報酬改定等の医療情勢の変化に迅速に対応して適切な施設基準の取得を行い、収入の確保に努める。 ③ 診療報酬請求に係るチェック体制を強化するとともに、医療費の未収金発生防止や確実な回収に努める。 ④ こども病院については、新病院への移転に伴い、患者の安全を最優先とするため、移転前後は診療行為の一部が制限されるが、その影響を最小限に止めるよう努力する。 ⑤ 福岡市民病院については、年々増加傾向にある市内の救急搬送状況に対応するため、救急部の医師・看護師を増員するとともに救急診療室を拡張し、救急搬送受入件数の拡大を図る。	ア 福岡市立こども病院 ○ 循環器センター、周産期センター及び手術部・集中治療センターについては、人員の適正配置を早急に行い、重症患者及び手術症例の受け入れ増に努め、早期の本格稼働を目指す。 ○ 新設診療科の脳神経外科・皮膚科・歯科及び形成外科に各常勤医師を配置し、手術・処置対応症例の増加を図る。 ○ 小児感染症科及び総合診療科の医師を増員し、時間外・休日の急患体制の充実を図ることにより、入院患者の増加を図る。 ○ 更新したドクターカーの運行体制の見直しや、ヘリポートの活用など、重症者等の受入体制を整え、患者数の増加を図る。 ○ 看護師を段階的に増員するとともに、DPCデータ分析による効率的なベッドコントロールを行い、更なる病床稼働率の向上に取り組む。 ○ 皮膚・排泄ケア認定看護師（WOCナース）を専従として配置し、褥瘡ハイリスク患者ケア加算を新たに取得する。 ○ 治験業務については、製造販売後調査に加え、検証的臨床試験（実際の治療に近い形での効果と安全性の確認）を継続して実施し、積極的に治験収入の増加に努める。 ○ レセプトチェックシステムを最大限に活用し、査定減の内容分析や対策を行うとともに、医師との情報共有及び連携強化によって診療報酬請求の精度向上を図る。 また、医療ソーシャルワーカーによる患者相談の充実、督促業務に精通した事務職員の配置等により、医療費の未収金発生防止に努めるとともに、電話、文書による督促や個別相談及び少額訴訟の活用等により、未収金の確実な回収を図る。 ○ 建物壁面や病院で発行する印刷物等を活用した企業広告の検討を進め、院内広告事業などによる医業外収入の確保に努める。

中期目標(内容)	診療体制の充実や効率的な病床利用及び高度医療機器の稼働率向上に努めるとともに、診療報酬改定等の医療環境の変化に的確に対応し、増収を目指すこと。 また、医療費の未収金発生の防止や確実な回収に努めること。
----------	--

評価の判断理由(実施状況等)	自己評価		委員会の評価		
	ウエイト	評価	ウエイト	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
ア 福岡市立こども病院 ○ 新人看護師等の配置の関係から、患者の受入調整を行っていた周産期センター等の稼働病床数について、8月からG C U(最大24床)は12床から18床へ、11月からP I C U(最大8床)は6床から7床、H C U(最大25床)は10床から12床へ拡充し、着実に体制の整備を進めるなど、重症患者及び手術症例の受入増に努めた。 ○ 小児高度専門医療の更なる充実に向けて、4月から脳神経外科、皮膚科及び小児歯科にそれぞれ2人の常勤医師を配置して診療を開始した。 ○ 小児感染症科及び総合診療科にそれぞれ2人の医師を増員するとともに、福岡市内救急隊とのホットラインの開設、勤務体制の見直し等、救急受入体制を強化した結果、救急搬送件数は7月以降増加した。 ○ ドクターカーの運用については、10月から新生児の迎え搬送に係る運用時間を延長し、受入体制の強化を図った。ヘリポートの活用については、ドクターヘリによる患者搬送を延べ11件受け入れた。 ○ 新人看護師等の配置の関係から、患者の受入調整を行っていた一般病棟について、7月から本格稼働に移行する中で、効率的なベッドコントロールに努めた結果、その後は80%~90%前後の高い稼働率で推移した。 ○ 10月に皮膚・排泄ケア認定看護師を専従で配置し、新たに褥瘡ハイリスク患者ケア加算の施設基準を取得した。 ○ 治験業務については、製造販売後調査に加え、検証的臨床試験に積極的に取り組んだ結果、治験収入は対前年度比で800万円余増加し、1,500万円余となった。 ○ レセプトチェックシステムを最大限に活用し査定減の内容分析及び対策を行った。また、新たに保険請求ワーキングチームを立ち上げ、医師との情報共有及び連携強化によって診療報酬請求の精度向上を図り、査定率が	2	3	2	3	患者の受入調整を行っていた病床の稼働数拡大や新設診療科への医師の増員、治験(製造販売後調査)の積極的な実施などにより増収が図られていることから、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期計画			年度計画		
【目標値】《再掲》			【目標値】《再掲》		
指標	こども病院（新病院）				
	平成23年度 実績値	平成28年度 目標値			
1人1日当たり 入院単価（円）	100,367	97,700			
1人1日当たり 外来単価（円）	11,966	12,900			
1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（％））	145.9 (76.8)	208.5 (89.5)			
新規入院患者数（人）	4,899	6,400			
平均在院日数（日）	9.9	11.9			
1日当たり 外来患者数（人）	276.7	387.4			
手術件数（件）	2,212	2,720			
救急搬送件数（件）	639	1,020			

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		委員会の評価																															
	ウエイト	評価	ウエイト	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど																													
0.27%から0.22%となった。 また、督促業務に精通した事務職員を配置し、2件の少額訴訟の検討を進めるとともに、電話や文書による督促、個別相談の活用により、医療費の未収金発生防止及び確実な回収に努めた。																																		
【実績値】《再掲》																																		
<table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>平成26年度 実績値</th><th>平成27年度 実績値</th></tr><tr><td>1人1日当たり 入院単価（円）</td><td>104,104</td><td>96,877</td></tr><tr><td>1人1日当たり 外来単価（円）</td><td>11,405</td><td>12,458</td></tr><tr><td>1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（％））</td><td>127.6 (61.4)</td><td>184.4 (78.0)</td></tr><tr><td>新規入院患者数(人)</td><td>4,242</td><td>6,038</td></tr><tr><td>平均在院日数（日）</td><td>10.0</td><td>10.2</td></tr><tr><td>1日当たり 外来患者数（人）</td><td>258.1</td><td>288.9</td></tr><tr><td>手術件数（件）</td><td>1,877</td><td>2,447</td></tr><tr><td>救急搬送件数（件）</td><td>589</td><td>1,028</td></tr></table>	指標	福岡市立こども病院		平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	1人1日当たり 入院単価（円）	104,104	96,877	1人1日当たり 外来単価（円）	11,405	12,458	1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（％））	127.6 (61.4)	184.4 (78.0)	新規入院患者数(人)	4,242	6,038	平均在院日数（日）	10.0	10.2	1日当たり 外来患者数（人）	258.1	288.9	手術件数（件）	1,877	2,447	救急搬送件数（件）	589	1,028					
指標		福岡市立こども病院																																
	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値																																
1人1日当たり 入院単価（円）	104,104	96,877																																
1人1日当たり 外来単価（円）	11,405	12,458																																
1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（％））	127.6 (61.4)	184.4 (78.0)																																
新規入院患者数(人)	4,242	6,038																																
平均在院日数（日）	10.0	10.2																																
1日当たり 外来患者数（人）	258.1	288.9																																
手術件数（件）	1,877	2,447																																
救急搬送件数（件）	589	1,028																																

中期目標(項目)	第4 財務内容の改善に関する事項 2 収支改善 (1) 増収
中期計画	年度計画
第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置 2 収支改善 (1) 増収 ① 診療体制の充実等による医療の高度化に取り組むとともに、効率的な病床管理や高度医療機器の稼働率向上に努め、収入増を図る。 ② 診療報酬改定等の医療情勢の変化に迅速に対応して適切な施設基準の取得を行い、収入の確保に努める。 ③ 診療報酬請求に係るチェック体制を強化するとともに、医療費の未収金発生防止や確実な回収に努める。 ④ こども病院については、新病院への移転に伴い、患者の安全を最優先とするため、移転前後は診療行為の一部が制限されるが、その影響を最小限に止めるよう努力する。 ⑤ 福岡市民病院については、年々増加傾向にある市内の救急搬送状況に対応するため、救急部の医師・看護師を増員するとともに救急診療室を拡張し、救急搬送受入件数の拡大を図る。	イ 福岡市民病院 ○ 高度医療を担う分野である循環器内科、血管外科及び脳神経外科の医師を増員することにより、高度医療の更なる拡充を図る。 ○ 救急診療棟の効率的な運用など、救急医療体制の充実を図ることにより、救急患者（重症患者）の増加及び手術件数の増加を図る。 また、新しく整備した内視鏡室を効率的に運用し、手術件数の増加を図る。 ○ 手術室の効率的な運用や時差出勤制度の見直し及びスタッフの増員等の体制整備により、緊急時の対応を強化し、難易度や専門性の高い手術件数の増加を図る。 ○ 心臓血管カテーテル室の新設に伴い、循環器救急を積極的に受け入れることで、心臓カテーテル検査の増加を図る。 ○ 循環器疾患の患者増加に対応して、新たに取得した心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅱ）の施設基準を活用して、リハビリ提供体制の更なる充実を図る。 ○ 地域医療支援病院としての役割を踏まえ、開放型病床の更なる利用促進とともに、連携パスを利用した地域医療連携を推進することにより、効率的な病床管理や高度医療機器の稼働率の向上を図る。 ○ 未収金に対しては、電話、文書による督促や個別相談及び少額訴訟の実施等により確実な回収を図るとともに、回収困難案件に関しては、弁護士事務所への業務委託を継続して行う。

中期目標(内容)	診療体制の充実や効率的な病床利用及び高度医療機器の稼働率向上に努めるとともに、診療報酬改定等の医療環境の変化に的確に対応し、増収を目指すこと。 また、医療費の未収金発生の防止や確実な回収に努めること。
----------	--

評価の判断理由(実施状況等)	自己評価		委員会の評価		
	ウエイト	評価	ウエイト	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
イ 福岡市民病院 ○ 医業収益については、57億3,800万円余となり、平成26年度実績を4億2,800万円余上回った。 この増収の要因としては、手術件数の増加や、循環器内科、脳神経外科及び血管外科におけるカテーテル治療及び検査件数の増加等があり(対前年度90件増)、その結果、入院単価が上昇した(対目標値749円増)。 また、外来については、C型肝炎に対する高額治療薬の使用開始により外来単価が大幅に上昇した(対目標値5,539円増)。 ○ 手術室の効率的な運用や時差出勤制度の見直し等の体制整備により、緊急時の対応を強化し、難易度や専門性の高い手術件数の増加を図った。 ○ 高度医療の更なる拡充を図るため、循環器領域において、循環器内科医2人、血管外科医1人を増員した。 ○ 平成26年度に心臓血管カテーテル室を新設し、循環器疾患の救急を積極的に受け入れており、平成27年度においても引き続き経皮的冠動脈形成術及び心臓カテーテル検査等の件数は増加した(対前年度29件増)。 ○ 循環器疾患の患者増に対応するため、心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅱ)の施設基準を活用するとともに、リハビリスタッフへの教育・研修等を通じて、リハビリ提供体制の更なる充実を図った。 ○ 地域医療支援病院として、開放型病床の更なる利用促進や大型医療機器の共同利用の推進を図り、地域医療機関との適切な連携を行った(利用延べ件数:26年度1,038件→27年度1,209件)。 ○ 未収金については、督促を適宜行うとともに、法律事務所への回収業務委託や、裁判所による自己破産者の債権調査への参加などの取組により、回収に努めた。	2	4	2	4	1日当たりの入院・外来単価や手術件数等の増加等により、医業収益は前年度実績を大きく上回っていることから、経常収支比率や医業収支比率等の年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期計画			年度計画		
【目標値】《再掲》			【目標値】《再掲》		
指標	福岡市民病院		指標	福岡市民病院	
	平成23年度 実績値	平成28年度 目標値		平成25年度 実績値	平成27年度 目標値
1人1日当たり 入院単価（円）	57,617	64,500	1人1日当たり 入院単価（円）	59,254	64,000
1人1日当たり 外来単価（円）	15,413	16,000	1人1日当たり 外来単価（円）	16,141	17,200
1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（％））	186.0 (93.0)	184.0 (92.0)	1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（％））	177.9 (88.9)	183.6 (90.0)
新規入院患者数（人）	4,386	4,900	新規入院患者数（人）	4,349	4,800
平均在院日数（日）	12.6	11.6	平均在院日数（日）	11.8	11.7
1日当たり 外来患者数（人）	236.5	250.0	1日当たり 外来患者数（人）	242.8	250.0
手術件数（件）	2,619	2,750	手術件数（件）	2,761	3,000
救急搬送件数（件）	2,323	3,100	救急搬送件数（件）	2,472	3,000

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		委員会の評価																															
	ウ エ ィ ト	評 価	ウ エ ィ ト	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど																													
【実績値】《再掲》 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>平成26年度 実績値</th><th>平成27年度 実績値</th></tr><tr><td>1人1日当たり 入院単価（円）</td><td>63,763</td><td>64,749</td></tr><tr><td>1人1日当たり 外来単価（円）</td><td>17,609</td><td>22,739</td></tr><tr><td>1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（％））</td><td>179.5 (89.7)</td><td>183.7 (90.1)</td></tr><tr><td>新規入院患者数（人）</td><td>4,647</td><td>4,510</td></tr><tr><td>平均在院日数（日）</td><td>11.9</td><td>12.6</td></tr><tr><td>1日当たり 外来患者数（人）</td><td>243.8</td><td>234.2</td></tr><tr><td>手術件数（件）</td><td>2,992</td><td>3,060</td></tr><tr><td>救急搬送件数（件）</td><td>2,835</td><td>2,620</td></tr></table>	指標	福岡市民病院		平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	1人1日当たり 入院単価（円）	63,763	64,749	1人1日当たり 外来単価（円）	17,609	22,739	1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（％））	179.5 (89.7)	183.7 (90.1)	新規入院患者数（人）	4,647	4,510	平均在院日数（日）	11.9	12.6	1日当たり 外来患者数（人）	243.8	234.2	手術件数（件）	2,992	3,060	救急搬送件数（件）	2,835	2,620					
指標		福岡市民病院																																
	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値																																
1人1日当たり 入院単価（円）	63,763	64,749																																
1人1日当たり 外来単価（円）	17,609	22,739																																
1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（％））	179.5 (89.7)	183.7 (90.1)																																
新規入院患者数（人）	4,647	4,510																																
平均在院日数（日）	11.9	12.6																																
1日当たり 外来患者数（人）	243.8	234.2																																
手術件数（件）	2,992	3,060																																
救急搬送件数（件）	2,835	2,620																																

中期目標(項目)	第4 財務内容の改善に関する事項 2 収支改善 (2) 費用削減
----------	--

中期計画	年度計画
第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置 2 収支改善 (2) 費用削減 ① 診療材料等の調達に係る価格交渉の徹底, 契約手法や委託業務の見直し及びジェネリック医薬品の使用拡大等を行い, 費用の削減を図る。 ② 両病院ともに施設・設備のアセットマネジメントを推進する。 ③ 新病院開院後は本部事務局を新病院内に移転するため, 病院事務局との業務分担を再編し, 本部機能及び病院運営に係る事務処理を効率的・効果的に遂行できる組織体制を構築する。	○ コストパフォーマンスを考慮した診療材料の選定や, 診療材料等の調達に係る価格交渉の徹底, SPD業務の再検討, 契約手法や委託業務の見直し及びジェネリック医薬品の使用拡大等に取り組み, 費用の削減を図る。 ○ 必要な医療機器の選定及び調達にあたっては, 費用対効果の検証や価格交渉を徹底し, 購入費用及び保守費用の削減を図る。 ○ 施設・設備のアセットマネジメントを推進するとともに, 省エネ対策への更なる取組により, 維持修理に係る費用の削減を図る。 ○ 新病院においては, LED照明, 太陽光発電及びビルディング・エネルギー・マネジメント・システム(BEMS)を活用して省エネ対策を推進するほか, 再生処理水の利用による光熱水費の抑制を図る。

中期目標（内容）	地方独立行政法人の会計制度を活用した効果的・効率的な事業運営に努めるとともに、効果的な費用の削減に努めること。 また、計画的な維持修理による施設の長寿命化と投資の平準化、施設運営・保守管理の効率化などのアセットマネジメントを推進すること。
----------	---

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		委員会の評価		
	ウエイト	評価	ウエイト	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
○ 両病院ともに、コストパフォーマンスを考慮した診療材料等の選定や委託等に係る複数年契約を推進したほか、福岡市立こども病院においては、SPDによる効率的な物流・在庫管理を徹底するとともに、ジェネリック医薬品の使用拡大を行うなど、費用削減に取り組んだ。 ○ アセットマネジメント推進の観点から、福岡市立こども病院においては、病院施設の長寿命化や投資の平準化を目的に、定期的に設備点検やメンテナンスを実施しながら、稼働状況に即した15年間の長期に及ぶ建物修繕計画及び設備修繕計画の見直しを行った。 また、福岡市民病院においては、エレベーター（1基）の更新や建物・電気・給排水・衛生及び医療ガス設備について、計画的な更新及び維持修繕を行うとともに、省エネ対策として、平成27年度は病棟の廊下をLED照明に切り替えた。 ○ 福岡市立こども病院においては、ビルディング・エネルギー・マネジメントシステム（BEMS）を活用して、今後、より効率的な施設運用を実現するための部門別・施設別のエネルギー使用状況データを蓄積し、電力料金単価が高い昼間における最大電力使用量を抑制し、反対に単価が安い深夜電力の有効活用が可能となるよう、自動制御設定の変更・調整を行った。 ○ 主な目標値の達成状況については、福岡市立こども病院においては高額薬剤や手術材料の増により、また、福岡市民病院においてはC型肝炎治療薬の院内処方件数の増により、両病院において材料費対医業収益比率は目標値に届かなかったものの、その他の実績値については目標値を上回った。	2	3	2	3	両病院ともに、コストパフォーマンスを考慮した診療材料等の選定や病院施設の長寿命化、計画的な施設更新・修繕維持などを行い、費用削減に取り組んでいることから、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期計画			年度計画		
【目標値】 (単位：％)			【目標値】 (単位：％)		
指標	こども病院（新病院）		指標	福岡市立こども病院	
	平成23年度 実績値	平成28年度 目標値		平成25年度 実績値	平成27年度 目標値
給与費対医業収益比率	56.0	52.8	給与費対医業収益比率	55.3	59.7
材料費対医業収益比率	18.6	20.9	材料費対医業収益比率	18.4	18.4
うち薬品費対医業収益比率	6.6	7.5	うち薬品費対医業収益比率	6.5	6.6
うち診療材料費対医業収益比率	11.5	12.4	うち診療材料費対医業収益比率	11.7	11.6
委託費対医業収益比率	6.1	11.2	委託費対医業収益比率	7.1	11.1
ジェネリック医薬品導入率	6.8	8.0	ジェネリック医薬品導入率	7.6	7.5 (30.0)
			※ジェネリック医薬品導入率は品目による目標値であるが、（ ）内に数量による目標値を参考に記載している。以下同じ。		
【目標値】 (単位：％)			【目標値】 (単位：％)		
指標	福岡市民病院		指標	福岡市民病院	
	平成23年度 実績値	平成28年度 目標値		平成25年度 実績値	平成27年度 目標値
給与費対医業収益比率	53.9	54.2	給与費対医業収益比率	58.6	59.9
材料費対医業収益比率	25.4	24.0	材料費対医業収益比率	24.2	25.8
うち薬品費対医業収益比率	9.0	8.6	うち薬品費対医業収益比率	8.7	8.2
うち診療材料費対医業収益比率	16.3	15.3	うち診療材料費対医業収益比率	15.4	17.5
委託費対医業収益比率	7.4	7.6	委託費対医業収益比率	6.6	7.2
ジェネリック医薬品導入率	22.8	30.0	ジェネリック医薬品導入率	27.2	30.0 (60.0)

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		委員会の評価																																																
	ウエ イト	評 価	ウエ イト	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど																																														
【実績値】（単位：％）<table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>平成26年度 実績値</th><th>平成27年度 実績値</th></tr><tr><td>給与費対医業収益比率</td><td>68.0</td><td>58.7</td></tr><tr><td>材料費対医業収益比率</td><td>22.4</td><td>21.1</td></tr><tr><td>うち薬品費対医業収益比率</td><td>6.6</td><td>8.0</td></tr><tr><td>うち診療材料費対医業収益比率</td><td>13.0</td><td>12.9</td></tr><tr><td>委託費対医業収益比率</td><td>10.3</td><td>9.9</td></tr><tr><td>ジェネリック医薬品導入率</td><td>7.1</td><td>9.7 (47.4)</td></tr></table>(注) ジェネリック医薬品導入率は品目による目標値であるが、（ ）内に数量による目標値を参考に記載している。以下同じ。 【実績値】（単位：％）<table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>平成26年度 実績値</th><th>平成27年度 実績値</th></tr><tr><td>給与費対医業収益比率</td><td>55.9</td><td>55.6</td></tr><tr><td>材料費対医業収益比率</td><td>26.7</td><td>30.0</td></tr><tr><td>うち薬品費対医業収益比率</td><td>8.9</td><td>12.4</td></tr><tr><td>うち診療材料費対医業収益比率</td><td>17.7</td><td>17.5</td></tr><tr><td>委託費対医業収益比率</td><td>6.6</td><td>6.4</td></tr><tr><td>ジェネリック医薬品導入率</td><td>29.1</td><td>31.9 (69.3)</td></tr></table>	指標	福岡市立こども病院		平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	給与費対医業収益比率	68.0	58.7	材料費対医業収益比率	22.4	21.1	うち薬品費対医業収益比率	6.6	8.0	うち診療材料費対医業収益比率	13.0	12.9	委託費対医業収益比率	10.3	9.9	ジェネリック医薬品導入率	7.1	9.7 (47.4)	指標	福岡市民病院		平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	給与費対医業収益比率	55.9	55.6	材料費対医業収益比率	26.7	30.0	うち薬品費対医業収益比率	8.9	12.4	うち診療材料費対医業収益比率	17.7	17.5	委託費対医業収益比率	6.6	6.4	ジェネリック医薬品導入率	29.1	31.9 (69.3)					
指標		福岡市立こども病院																																																	
	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値																																																	
給与費対医業収益比率	68.0	58.7																																																	
材料費対医業収益比率	22.4	21.1																																																	
うち薬品費対医業収益比率	6.6	8.0																																																	
うち診療材料費対医業収益比率	13.0	12.9																																																	
委託費対医業収益比率	10.3	9.9																																																	
ジェネリック医薬品導入率	7.1	9.7 (47.4)																																																	
指標	福岡市民病院																																																		
	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値																																																	
給与費対医業収益比率	55.9	55.6																																																	
材料費対医業収益比率	26.7	30.0																																																	
うち薬品費対医業収益比率	8.9	12.4																																																	
うち診療材料費対医業収益比率	17.7	17.5																																																	
委託費対医業収益比率	6.6	6.4																																																	
ジェネリック医薬品導入率	29.1	31.9 (69.3)																																																	

中期目標(項目)	第4 財務内容の改善に関する事項 2 収支改善
----------	----------------------------

中期計画	年度計画																												
第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置 2 収支改善 (3) 収支改善 増収対策及び費用削減の取組を徹底し、純利益の確保に努める。	○ 新病院の開院に伴う施設・設備や医療機器の減価償却費等が大幅に増額し、当面は収支が悪化することから、法人全体として、継続的に増収対策及び費用削減の取組を徹底し、中期目標の達成に努める。 特に新病院においては、早期の本格稼働による収益増加を図るとともに、新病院に対応した的確な増収対策及び費用削減の取組を徹底し、純損失の抑制に努める。																												
【目標値】 (単位：%) <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">こども病院 (新病院)</th></tr><tr><th>平成23年度 実績値</th><th>平成28年度 目標値</th></tr><tr><td>総収支比率</td><td>110.3</td><td>101.9</td></tr><tr><td>経常収支比率</td><td>110.9</td><td>101.9</td></tr><tr><td>医業収支比率</td><td>92.9</td><td>92.2</td></tr></table>	指標	こども病院 (新病院)		平成23年度 実績値	平成28年度 目標値	総収支比率	110.3	101.9	経常収支比率	110.9	101.9	医業収支比率	92.9	92.2	【目標値】 (単位：%) <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>平成25年度 実績値</th><th>平成27年度 目標値</th></tr><tr><td>総収支比率</td><td>111.0</td><td>98.2</td></tr><tr><td>経常収支比率</td><td>111.1</td><td>98.9</td></tr><tr><td>医業収支比率</td><td>95.5</td><td>87.4</td></tr></table>	指標	福岡市立こども病院		平成25年度 実績値	平成27年度 目標値	総収支比率	111.0	98.2	経常収支比率	111.1	98.9	医業収支比率	95.5	87.4
指標		こども病院 (新病院)																											
	平成23年度 実績値	平成28年度 目標値																											
総収支比率	110.3	101.9																											
経常収支比率	110.9	101.9																											
医業収支比率	92.9	92.2																											
指標	福岡市立こども病院																												
	平成25年度 実績値	平成27年度 目標値																											
総収支比率	111.0	98.2																											
経常収支比率	111.1	98.9																											
医業収支比率	95.5	87.4																											
【目標値】 (単位：%) <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>平成23年度 実績値</th><th>平成28年度 目標値</th></tr><tr><td>総収支比率</td><td>114.9</td><td>107.5</td></tr><tr><td>経常収支比率</td><td>115.4</td><td>108.3</td></tr><tr><td>医業収支比率</td><td>100.7</td><td>98.8</td></tr></table>	指標	福岡市民病院		平成23年度 実績値	平成28年度 目標値	総収支比率	114.9	107.5	経常収支比率	115.4	108.3	医業収支比率	100.7	98.8	【目標値】 (単位：%) <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>平成25年度 実績値</th><th>平成27年度 目標値</th></tr><tr><td>総収支比率</td><td>107.0</td><td>103.7</td></tr><tr><td>経常収支比率</td><td>107.4</td><td>104.4</td></tr><tr><td>医業収支比率</td><td>96.4</td><td>93.1</td></tr></table>	指標	福岡市民病院		平成25年度 実績値	平成27年度 目標値	総収支比率	107.0	103.7	経常収支比率	107.4	104.4	医業収支比率	96.4	93.1
指標		福岡市民病院																											
	平成23年度 実績値	平成28年度 目標値																											
総収支比率	114.9	107.5																											
経常収支比率	115.4	108.3																											
医業収支比率	100.7	98.8																											
指標	福岡市民病院																												
	平成25年度 実績値	平成27年度 目標値																											
総収支比率	107.0	103.7																											
経常収支比率	107.4	104.4																											
医業収支比率	96.4	93.1																											

中期目標(内容)	
----------	--

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		委員会の評価																															
	ウエイト	評価	ウエイト	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど																													
○ 福岡市立こども病院においては、移転後、病床数の増加に応じて医師及び看護師の人員を確保したが、新規採用職員の教育研修等もあり、年度当初（４月～６月）は目標値に対して、病床利用率等が落ち込んだ。 しかしながら、７月以降、手術体制の見直しや、病棟別・診療科別病床稼働目標の設定など本格稼働に向けた取組を推進し、入院患者数の増加及び病床利用率の向上につながり、また、更なる経費の見直しによる費用削減効果もあり、年度計画で想定していた当期純損失については2,200万円余まで縮小した。 ○ 福岡市民病院においては、増収対策及び費用削減に積極的に取り組んだ結果、当期純利益は8,400万円余となった。 ○ これらの結果、市立病院機構全体では6,200万円余の当期純利益を確保し、経常収支比率及び医業収支比率において両病院ともに目標値を達成した。 【実績値】（単位：％） <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>平成26年度 実績値</th><th>平成27年度 実績値</th></tr><tr><td>総収支比率</td><td>95.5</td><td>99.8</td></tr><tr><td>経常収支比率</td><td>98.5</td><td>101.9</td></tr><tr><td>医業収支比率</td><td>78.1</td><td>87.8</td></tr></table> 【実績値】（単位：％） <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>平成26年度 実績値</th><th>平成27年度 実績値</th></tr><tr><td>総収支比率</td><td>106.2</td><td>101.3</td></tr><tr><td>経常収支比率</td><td>106.7</td><td>106.0</td></tr><tr><td>医業収支比率</td><td>96.8</td><td>95.3</td></tr></table> （注）平成27年度決算より控除対象外消費税等及び資産に係る控除対象外消費税等償却の表示区分を営業外費用から営業費用に変更しているため、医業収支比率の平成27年度実績値は営業費用からこれらの金額を差引いて算定している。	指標	福岡市立こども病院		平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	総収支比率	95.5	99.8	経常収支比率	98.5	101.9	医業収支比率	78.1	87.8	指標	福岡市民病院		平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	総収支比率	106.2	101.3	経常収支比率	106.7	106.0	医業収支比率	96.8	95.3	2	3	2	3	福岡市立こども病院では、病床利用率の向上や費用削減等により、年度計画で想定していた当期純損失を縮減し、福岡市民病院では、増収対策や費用削減に積極的に取り組み、当期純利益を大きく確保した結果、経営に関する目標値を達成できていることから、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。	
指標		福岡市立こども病院																																
	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値																																
総収支比率	95.5	99.8																																
経常収支比率	98.5	101.9																																
医業収支比率	78.1	87.8																																
指標	福岡市民病院																																	
	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値																																
総収支比率	106.2	101.3																																
経常収支比率	106.7	106.0																																
医業収支比率	96.8	95.3																																

中期目標(項目)	第5 その他業務運営に関する重要事項 1 新病院の整備及び運営に関する取組
-----------------	---

中期計画	年度計画
第5 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置 1 新病院の整備及び運営に関する取組 ① 新病院の整備については、平成26年11月の開院を目指し、防災対策も含め、着実に事業を進めていく。 ② 市民に親しまれる病院づくりを推進するため、市民や医療関係者等に対し、新病院の概要や医療機能の拡充内容などを積極的に情報発信する。 ③ 新病院では医師、看護師を始め医療従事者の増員が必要となるため、開院後の稼働状況に合わせた段階的な採用により医療従事者を確保していく。 ④ 小児医療、周産期医療を取り巻く状況や医療環境の変化等を踏まえ、新病院が求められる役割を果たすために必要な病床の確保などの適切な対応に努める。	○ 新病院の開院に合わせてリニューアルしたホームページについては、市民や医療関係者等に対し最新の情報を発信するため、掲載内容の充実を図るほか、病院の医療機能や診療実績等について、広く市民等に情報発信を行うため、分かりやすい「病院指標」の公開を行う。 ○ 小児医療のさらなる充実を図るため、4月から脳神経外科、皮膚科及び小児歯科に常勤医師を配置し、診療を開始するとともに、各センターや病棟の本格稼働に向け、医師、看護師をはじめ、必要な医療従事者を確保する。 ○ 周産期センターの医療機能強化のため、国家戦略特別区域法に基づく病床規制の特例を活用し、増床に向けて整備を推進する。 ○ 5月に開所予定の患児家族滞在施設（ふくおかハウス）については、家族が安心して滞在できるよう「公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン」の円滑な運営に協力する。

中期目標（内容）	新病院の整備については、こども病院移転計画調査委員会において指摘のあった防災対策などについて十分配慮し、株式会社F C Hパートナーズとの連携強化を図りながら、平成26年11月の開院を目指すとともに、地域住民に対する積極的な情報発信などにより、市民に親しまれる病院づくりに努めること。 また、開院後において、円滑な病院運営及び質の高いサービスの提供を行えるよう、医療従事者の確保など、必要な取組を着実に行うこと。 さらに、小児医療、周産期医療を取り巻く状況や医療環境の変化等を踏まえ、新病院が求められる役割を果たすため、引き続き必要となる病床の確保に努めること。
-----------------	--

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		委員会の評価		
	ウエイト	評価	ウエイト	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
○ 市民に親しまれる病院づくりを推進するため、ホームページや広報誌等により、新病院の機能や運営情報等を積極的に情報発信した。なお、ホームページについては、市民や医療関係者等に対し最新の情報を発信するため、随時、新着情報の更新等を行った。 また、病院の医療機能や診療実績等に関する「病院指標」の公開については、D P Cにおける機能評価係数での評価が始まる平成29年度に向けて、準備を進めた。 ○ 小児高度専門医療の更なる充実に向けて、4月から脳神経外科、皮膚科及び小児歯科にそれぞれ2人の常勤医師を配置して診療を開始するとともに、各センターや病棟の本格稼働に向け、病院全体で医師24人、看護師・助産師計57人を増員するなど、必要な医療従事者の確保に努めた。 なお、新人看護師等の配置の関係から、患者の受入調整を行っていた一般病棟については、7月から本格稼働に移行するとともに、稼働病床数について、8月からG C U（最大24床）は12床から18床へ、11月からP I C U（最大8床）は6床から7床、H C U（最大25床）は10床から12床へ拡充した。 ○ 周産期センターの医療機能強化のため、国家戦略特別区域法に基づく病床規制の特例を活用し、9月から、双胎間輸血症候群におけるF L P治療及びその周産期管理のための病床6床を産科病棟に増床した（本件については、福岡市長表彰を受賞）。 ○ 患児家族滞在施設（ふくおかハウス）については、視察対応等を通じて、新たな寄付金の受入や生活必需品の支援等につなげることができた。	2	4	2	4	市民に親しまれる病院づくりを推進するため積極的に情報発信を行ったこと、また、必要な医師及び看護師等を増員するとともに、新人教育等を徹底し、一般病棟については本格稼働に移行し、G C U等についても稼働病床数が拡大したほか、国家戦略特区を活用し産科病床を6床増床したことから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期目標(項目)	第5 その他業務運営に関する重要事項 2 福岡市民病院における経営改善の推進
----------	--

中期計画	年度計画
第5 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置 2 福岡市民病院における経営改善の推進 ① 福岡市民病院については,引き続き高度専門医療,高度救急医療を提供するとともに,福岡市における感染症医療の一翼を担うなど,市立病院として求められる役割を果たす。 ② 平成23年度の医業収支黒字化を踏まえ,引き続き経営の効率化に努める。	○ 救急診療棟の完成により,新型インフルエンザ等の対応や救急部の医療体制の充実を図るとともに,引き続き高度専門医療,高度救急医療を提供することで,市立病院として求められる役割を果たす。 ○ 引き続き経営の効率化を図り,医業収支の更なる改善に努める。

中期目標(内容)	福岡市民病院の経営改善については、地方独立行政法人化後2年目で病院開設以来初となる医業収支の黒字化を達成するなど、順調に進んでいるところであるものの、福岡市の厳しい財政状況を踏まえ、市立病院として担うべき医療を着実にを行いながら、引き続き経営の効率化に努めること。
----------	--

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		委員会の評価																						
	ウエイト	評価	ウエイト	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど																				
○ 医療法で定められた医療計画における 4 疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞及び糖尿病）への対応を中心に高度専門医療の更なる充実を図った。 特に、高度救急医療については、脳疾患・循環器疾患の患者が増加し、脳血管内治療や経皮的冠動脈形成術、心臓カテーテル検査及び腹部大動脈瘤ステント挿入術等の難易度・専門性の高い手術及び検査を引き続き実施した。 また、脳神経・脳卒中センターにおいては、平成26年度に引き続き、市内医療機関で最多の地域医療連携パスを発行（市内1,193件中292件：福岡市医師会資料）するなど、病病連携をより一層強化し、治療法の充実を図った。 ○ 感染症専門医を新たに 2 人配置するなど、感染症医療体制の整備を行うとともに、6 月に新型インフルエンザ等対策特別措置法における「指定地方公共機関」の認定を受け、感染症医療機能の充実を図った。 ○ 増収対策や経費節減に取り組んだ結果、医業収益は平成26年度に比べ大幅に向上し、医業収支比率は目標値を上回った。 【医業収支比較】（単位：百万円） <table><tr><th>区分</th><th>平成26年度</th><th>平成27年度</th><th>比較</th></tr><tr><td>医業収益 a</td><td>5,311</td><td>5,739</td><td>428</td></tr><tr><td>営業費用 b</td><td>5,486</td><td>6,020</td><td>534</td></tr><tr><td>差引（a－b）</td><td>▲175</td><td>▲281</td><td>▲106</td></tr><tr><td>医業収支比率（a／b）</td><td>96.8% (95.6%)</td><td>95.3% (93.1%)</td><td>▲1.5</td></tr></table> （注1）（ ）内は目標値。 （注2）平成 27 年度決算より控除対象外消費税等及び資産に係る控除対象外消費税等償却の表示区分を営業外費用から営業費用に変更しているため、医業収支比率の平成 27 年度は営業費用からこれらの金額を差引いて算定している。	区分	平成26年度	平成27年度	比較	医業収益 a	5,311	5,739	428	営業費用 b	5,486	6,020	534	差引（a－b）	▲175	▲281	▲106	医業収支比率（a／b）	96.8% (95.6%)	95.3% (93.1%)	▲1.5	2	4	2	4	医業収益は大幅に増加し、医業収支比率は目標値を上回ったことから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。
区分	平成26年度	平成27年度	比較																						
医業収益 a	5,311	5,739	428																						
営業費用 b	5,486	6,020	534																						
差引（a－b）	▲175	▲281	▲106																						
医業収支比率（a／b）	96.8% (95.6%)	95.3% (93.1%)	▲1.5																						

第5 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

1 予算

（単位：百万円）

区 分	予算額	決算額	差 額 (決算－予算)
収入			
営業収益	15,413	15,324	▲ 89
医業収益	13,164	13,255	90
運営費負担金収益	2,196	1,956	▲ 240
補助金等収益	51	84	33
寄附金収益	2	2	0
受託収入	－	27	27
営業外収益	413	425	12
運営費負担金収益	289	289	－
補助金等収益	－	1	1
その他営業外収益	124	134	11
資本収入	412	580	168
長期借入金	412	317	▲ 95
運営費負担金	－	240	240
補助金等	－	24	24
その他収入	0	29	29
計	16,238	16,358	120
支出			
営業費用	13,462	13,205	▲ 257
医業費用	13,272	13,047	▲ 225
給与費	7,823	7,407	▲ 416
材料費	3,052	3,562	510
経費	2,313	2,008	▲ 305
資産減耗費	1	－	▲ 1
研究研修費	83	70	▲ 12
一般管理費	191	158	▲ 32
給与費	121	120	▲ 1
経費	70	39	▲ 31
営業外費用	423	266	▲ 157
資本支出	1,657	1,630	▲ 27
建設改良費	418	472	54
償還金	1,239	1,158	▲ 81
その他の支出	891	105	▲ 786
計	16,434	15,207	▲ 1,227

（注）計数は、原則としてそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは一致しないものがある。

2 収支計画

(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差 額 (決算－予算)
収益の部	16,619	16,197	▲ 422
営業収益	15,423	15,539	116
医業収益	13,164	13,241	77
運営費負担金収益	2,196	1,956	▲ 240
補助金等収益	51	84	33
寄附金収益	2	2	0
資産見返負債戻入	10	231	221
受託収入	－	25	25
営業外収益	413	431	18
運営費負担金収益	289	289	－
その他営業外収益	124	142	18
臨時利益	782	226	▲ 556
費用の部	16,574	16,135	▲ 440
営業費用	15,072	15,158	85
医業費用	14,880	14,413	▲ 468
給与費	7,864	7,595	▲ 270
材料費	3,052	3,309	257
経費	2,313	1,866	▲ 447
減価償却費	1,567	1,576	9
資産減耗費	1	2	1
研究研修費	83	66	▲ 17
一般管理費	192	157	▲ 35
その他営業費用	－	588	588
営業外費用	598	268	▲ 330
臨時損失	904	709	▲ 195
純利益	44	62	18
目的積立金取崩額	－	－	－
総利益	44	62	18

(注) 計数は、原則としてそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは一致しないものがある。

3 資金計画

(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差 額 (決算－予算)
資金収入	19,655	19,220	▲ 436
業務活動による収入	15,826	15,260	▲ 566
診療業務による収入	13,164	12,700	▲ 465
運営費負担金による収入	2,485	2,246	▲ 240
その他の業務活動による収入	177	315	138
投資活動による収入	－	2,321	2,321
運営費負担金による収入	－	240	240
その他の投資活動による収入	－	2,081	2,081
財務活動による収入	412	317	▲ 95
長期借入れによる収入	412	317	▲ 95
その他の財務活動による収入	－	－	－
前事業年度からの繰越金	3,417	1,322	▲ 2,095
資金支出	19,655	19,220	▲ 435
業務活動による支出	14,777	13,323	▲ 1,454
給与費支出	7,944	7,486	▲ 457
材料費支出	3,052	2,993	▲ 59
その他の業務活動による支出	3,781	2,843	▲ 938
投資活動による支出	418	2,894	2,476
有形固定資産取得による支出	418	165	▲ 253
無形固定資産取得による支出	－	3	3
その他の投資活動による支出	－	2,726	2,726
財務活動による支出	1,239	1,254	15
長期借入金の返済による支出	421	421	0
移行前地方債償還債務の 償還による支出	737	737	0
その他の財務活動による支出	81	96	15
翌事業年度への繰越金	3,222	1,749	▲ 1,473

(注) 計数は、原則としてそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは一致しないものがある。

第6 短期借入金の限度額

中期計画	年度計画	実 績
1 限度額 2,000百万円 2 想定される短期借入金の発生事由 ア 業績手当（賞与）の支給等による一時的な資金不足への対応 イ 予定外の退職者の発生に伴う退職手当の支給等，偶発的な出費への対応	1 限度額 2,000百万円 2 想定される短期借入金の発生事由 ア 業績手当（賞与）の支給等による一時的な資金不足への対応 イ 予定外の退職者の発生に伴う退職手当の支給等，偶発的な出費への対応	該当なし

第7 重要な財産を譲渡し，又は担保に供する計画

中期計画	年度計画	実 績
なし	なし	該当なし

第8 剰余金の使途

中期計画	年度計画	実 績
決算において剰余を生じた場合は，病院施設の整備，医療機器の購入，教育・研修体制の充実等に充てる。	決算において剰余を生じた場合は，病院施設の整備，医療機器の購入，教育・研修体制の充実等に充てる。	平成27年度の決算において生じた剰余については，平成28年度における病院施設の整備，医療機器の購入，教育・研修体制の充実等に充てるため積み立てる。

第 9 地方独立行政法人福岡市立病院機構の業務運営等に関する規則で定める業務運営に関する事項

中期計画	年度計画	実 績																		
1 施設及び設備に関する計画 (平成25年度から平成28年度まで) (単位：百万円) <table border="1"> <tr> <th>施設及び設備 の内容</th><th>予定額</th><th>財源</th></tr> <tr> <td>病院施設, 医療 機器等整備</td><td>17,571</td><td>福岡市長期借 入金等</td></tr> </table>	施設及び設備 の内容	予定額	財源	病院施設, 医療 機器等整備	17,571	福岡市長期借 入金等	1 施設及び設備に関する計画 (平成27年度) (単位：百万円) <table border="1"> <tr> <th>施設及び設備 の内容</th><th>予定額</th><th>財源</th></tr> <tr> <td>病院施設, 医療 機器等整備</td><td>418</td><td>福岡市長期借 入金等</td></tr> </table>	施設及び設備 の内容	予定額	財源	病院施設, 医療 機器等整備	418	福岡市長期借 入金等	1 施設及び設備に関する計画 (平成27年度) (単位：百万円) <table border="1"> <tr> <th>施設及び設備 の内容</th><th>決定額</th><th>財源</th></tr> <tr> <td>病院施設, 医療 機器等整備</td><td>376</td><td>福岡市長期借 入金等</td></tr> </table>	施設及び設備 の内容	決定額	財源	病院施設, 医療 機器等整備	376	福岡市長期借 入金等
施設及び設備 の内容	予定額	財源																		
病院施設, 医療 機器等整備	17,571	福岡市長期借 入金等																		
施設及び設備 の内容	予定額	財源																		
病院施設, 医療 機器等整備	418	福岡市長期借 入金等																		
施設及び設備 の内容	決定額	財源																		
病院施設, 医療 機器等整備	376	福岡市長期借 入金等																		
2 人事に関する計画 職員の意欲を引き出す人事制度を構築するとともに、教育・研修体制の充実等により、職員のモチベーションの維持・向上を図る。 また、適材適所を基本とした柔軟な人事配置を行うとともに、有期職員の活用やアウトソーシングの検討を積極的に行い、効果的・効率的な組織運営体制の構築を図る。	2 人事に関する計画 職員の意欲を引き出す人事制度の構築や教育・研修体制の充実等に取り組む。 また、職員の能力や適性等に応じた適材適所の人事配置や有期職員の活用等により、効果的・効率的な組織運営を推進する。	2 人事に関する計画 人事制度の構築については、平成27年度から試行を開始した医師以外の管理職を対象とする管理職目標管理制度について、将来的には職員の業績や貢献度等を給与に反映できるよう、評価手法や目標設定のあり方等について関係者から意見を聴取し検討を進めた。 教育・研修体制の充実については、運営本部においてマネジメント能力向上を目的に、全職種を対象とした監督者研修及び主任級研修を実施したほか、各病院においても外部講師の活用による院内研修の実施や外部研修の受講を推進するなど研修体制の充実に努めた。 人材育成や組織の活性化を図るため、事務職の病院間等の人事異動を積極的に行い適材適所の人事配置に努めたほか、有期職員を福岡市立こども病院に110人、福岡市民病院に115人及び運営本部に2人配置するなど、効果的・効率的な組織運営を推進した（有期職員の人数は平成27年5月1日現在）。																		

地方独立行政法人福岡市立病院機構 業務実績評価の方針

平成22年11月10日

地方独立行政法人福岡市立病院機構評価委員会決定

地方独立行政法人法第28条第1項及び第30条第1項の規定に基づき、地方独立行政法人福岡市立病院機構評価委員会（以下「評価委員会」という。）が実施する地方独立行政法人福岡市立病院機構（以下「法人」という。）の業務実績に関する評価（以下「評価」という。）については、以下の方針に基づき行うものとする。

1 基本方針

- (1) 評価は、法人が中期目標を達成するために、業務運営の改善及び効率化が進められること及び法人の質的向上に資することを目的として行うものとする。
- (2) 評価は、年度計画及び中期計画の実施状況を確認及び分析し、法人の業務運営等について総合的に判断して行うものとする。
- (3) 年度計画及び中期計画を実現するために、法人として特色ある取組や様々な工夫を行った場合は積極的に評価することとし、単に実績数値にとらわれないものとする。
- (4) 評価方法については、法人を取り巻く環境変化などを踏まえ、柔軟に対応するとともに、必要に応じて見直しを行うものとする。
- (5) 評価結果を法人に通知する場合は、法人に対し、意見申立ての機会を付与するものとする。

2 評価方法

(1) 法人からの報告書の提出

法人は、各事業年度及び中期目標期間終了後3月以内に、当該期間における業務の実績を明らかにした報告書（以下「業務実績報告書」という。）を評価委員会に提出する。その際、各事業年度の業務実績報告書においては、年度計画に記載されている小項目などについて法人が行った自己評価をあわせて記載する。

(2) 評価の実施

評価委員会は、提出された業務実績報告書をもとに、法人からの意見聴取等を踏まえて業務の実施状況を確認及び分析し、総合的な評価を行う。評価は、各事業年度終了時に実施する「年度評価」と、中期目標期間終了時に実施する「中期目標期間評価」とし、それぞれ「項目別評価」と「全体評価」により行うものとする。

① 年度評価

中期計画及び年度計画に記載されている小項目、大項目及び全体について評価を行う。

評価に当たっては、小項目について病院ごとの実績がわかるように工夫し、病院の自己点検に基づき、法人としての自己評価を行い、これに基づき評価委員会にお

いて確認及び分析し、「項目別評価」（小項目及び大項目）を行い、「項目別評価」の結果を踏まえつつ、中期計画、年度計画の進捗状況全体について総合的に評価を行う。

なお、「年度評価」に係る評価基準等の詳細については、別途実施要領で定めるものとする。

② 中期目標期間評価

各「年度評価」の評価結果も踏まえつつ、中期計画に記載されている大項目及び全体について評価を行う。

評価に当たっては、当該期間における中期目標の達成状況について、当該期間中の「年度評価」の結果を踏まえつつ、評価委員会において確認及び分析し、「項目別評価」（大項目）を行う。さらに、「項目別評価」の結果を踏まえ、当該中期目標期間における業務実績全体について総合的に評価する。

なお、「中期目標期間評価」に係る評価基準等の詳細については、別途実施要領で定めるものとする。

3 評価結果の活用

- (1) 法人は、評価結果や勧告を受けて、法人として取り組む事項を明確にし、改善に取り組むとともに、その状況を評価委員会に報告する。
- (2) 法人の業務継続の必要性及び組織のあり方等に関する検討、次期中期目標の策定及び次期中期計画の作成に関して、評価委員会が意見を述べる際には、中期目標期間の各年度の評価結果を踏まえるものとする。

地方独立行政法人福岡市立病院機構 年度業務実績評価実施要領

平成22年11月10日

地方独立行政法人福岡市立病院機構評価委員会決定

地方独立行政法人法第28条の規定に基づき、地方独立行政法人福岡市立病院機構評価委員会（以下「評価委員会」という。）が地方独立行政法人福岡市立病院機構（以下「法人」という。）の各事業年度に係る業務実績に関する評価（以下「年度評価」という。）を実施するにあたっては、「地方独立行政法人福岡市立病院機構業務実績評価の方針（平成22年11月10日決定）」に基づき、以下の要領により実施する。

1 項目別評価の具体的方法

「項目別評価」は、原則として当該年度の年度計画に定めた小項目ごとに、その実施状況について法人が自己評価を行う。さらに評価委員会においても評価を行った上で、年度計画に掲げる「第1～第4」の項目（大項目）について評価を行う。

なお、法人においては、年度計画の小項目を必要に応じて細分化することができるものとする。

(1) 項目別評価【法人による小項目自己評価】

法人において、小項目ごとの進捗について、実施状況をできる限り定量的に記載するとともに、次の5段階で自己評価を行い、判断理由を記載した業務実績報告書（別紙のとおり）を作成する。法人は、各項目に市立病院としての役割や年度計画の重要度合いを考慮して、ウェイトを設定するとともにその理由を付記するものとする。

なお、業務実績報告書には、特記事項として、特色ある取組、法人運営を円滑に進めるための工夫、今後の課題などを自由に記載するものとし、自己評価は、病院ごとの実績がわかるよう工夫し、病院の自己点検に基づき、法人として行うものとする。

評価5・・・年度計画を大幅に上回って実施している。

評価4・・・年度計画を上回って実施している。

評価3・・・年度計画を順調に実施している。

評価2・・・年度計画を十分に実施できていない。

評価1・・・年度計画を大幅に下回っている。

(2) 項目別評価【評価委員会による小項目評価】

評価委員会において、法人の自己評価及び法人が設定する小項目、ウェイトなどを総合的に検証し、小項目ごとの進捗状況について、法人の自己評価と同様に「1～5」の5段階による評価を行う。その際、単に目標値及び前年度数

値と当該実績値の比較だけでなく、計画を達成するために効果的な取組が行われているかどうかも含め、総合的に判断するものとする。

評価委員会による評価と法人の自己評価が異なる場合は、評価委員会が評価の判断理由等を示す。

その他、必要に応じて、特筆すべき点や遅れている点についてコメントを付す。

(3) 項目別評価【評価委員会による大項目評価】

評価委員会において、小項目評価の結果、特記事項の記載内容などを考慮し、大項目ごとに中期計画の実現に向けた業務の進捗状況について、次の5段階による評価を行い、考慮した事項及びそのように判断した理由も記載する。

評価S：中期計画の実現に向けて、特筆すべき進捗状況にある

(評価委員会が特に認める場合)

評価A：中期計画の実現に向けて計画どおり進んでいる

(すべての小項目が3～5)

評価B：中期計画の実現に向けておおむね計画どおり進んでいる

(3～5の小項目の割合がおおむね9割以上)

評価C：中期計画の実現のためにはやや遅れている

(3～5の小項目の割合がおおむね9割未満)

評価D：中期計画の実現のためには重大な改善すべき事項がある

(評価委員会が特に認める場合)

なお、小項目評価結果の割合を算定するにあたっては、ウエイトを考慮した小項目数によるものとする。

2 全体評価の具体的方法

評価委員会において、項目別評価の結果を踏まえ、年度計画及び中期計画の全体的な進捗状況について、記述式による評価を行う。

全体評価においては、法人化を契機とした病院改革の取り組み(法人運営における業務運営の改善・効率化、財務内容の改善など)を積極的に評価するものとする。

その評価にあたり、項目別の結果とともに、主な取組や特色ある取組及び特に優れている点など特筆すべき取組について評価結果報告書(別紙のとおり)に記載するものとする。

また、評価の中で改善すべき事項については評価委員会の意見として評価結果報告書に記載するとともに、特に重大な改善事項については勧告を行うものとする。

